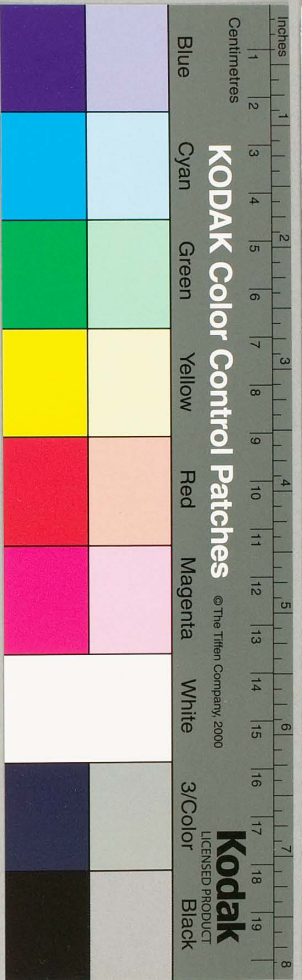


0434



攝津名所圖會

東生郡
西成郡



291.6309

Ak

3

武庫川女子大 図書館
昭和 年 月 日 29.1.29
A16
119029 3

攝津名所圖會卷之三

東生郡西成郡

生魂神社 教社 村社 神實
 天祠 妙真祠 北向八幡宮
 社司 僧 那具江
 名具濱 那古海
 廣田社 朝役神役之事 赤山蹟 女人形記
 本津船川 難波天王祠 網引 難波港水
 瑞龍寺 佛殿 天王殿 難波 勝間浦
 能師渡々墓 難波 聖德王御影松
 國分寺 舍利寺 味原郷 味原御牧
 野中觀音 味原郷 大葉外山 仁徳天皇皇居古蹟
 味原堤 高麦崎 産湯清水 胞衣冢 御館祠
 小橋里



井上



百濟川

猪津橋 名橋

京中道

梅入路

百濟寺趾

五樓山

渙父剎

御幸宮

味徑宮旧蹟

難波宮旧跡

法藏山

靈蹤秋表

比賣許曾神社

磐船舊蹟

山下清水

有都谷

三韓館

忍墳井

壇山稻荷

僧契冲碑

玉造岡

玉造川

玉造江

豐津稻荷社

奉社 攝社

八幡宮 天満宮

住吉洞

梅薬師

觀音堂 白龍社

高臺 神輿舎

森宮 豐野之御社

杉山

我中丹戸

玉造陸水

左專道不動

綱鳥

名産保江笠

法明寺

源八波口

母恩寺

大長寺 鯉冢

櫻野宮

大和川

絶間池

鶴塚

名産蒲穂

鬼貫蹟

春日洞

福嶋天神

逆櫓松

妙徳寺 五百羅漢

野田壩

野田藤

燈如上人旧蹟

古川

竹林寺

名産鰻

蛭子松

衢懐嶺

監船所

茨住右

九島院

一夜官女

大和田 浦濱

御幣嶋

武内宿禰墳

八幡宮

加嶋鍛冶

判官松

傳法

田蓑嶋

長樂寺

稲荷洞

富光寺

川嶋

大和殿

利嶋

大日寺

川嶋

源光寺

柏渡口

如未塚

長柄豐崎宮

長柄渡口

名柄川

長柄橋蹟

鶴嶋寺

園分寺

釋迦堂趾

鶯冢

觀音寺

崇禪寺

鹿嶋祠

山伏松

大願寺

橋柱地蔵

崇禪寺馬場

柴嶋

賀茂祠

祀皇祠

光明池

鯉橋

江口遊女妙

江口尼

大隅宮

江口

江口遊女妙

江口尼

君堂
芦若江

江口城壘

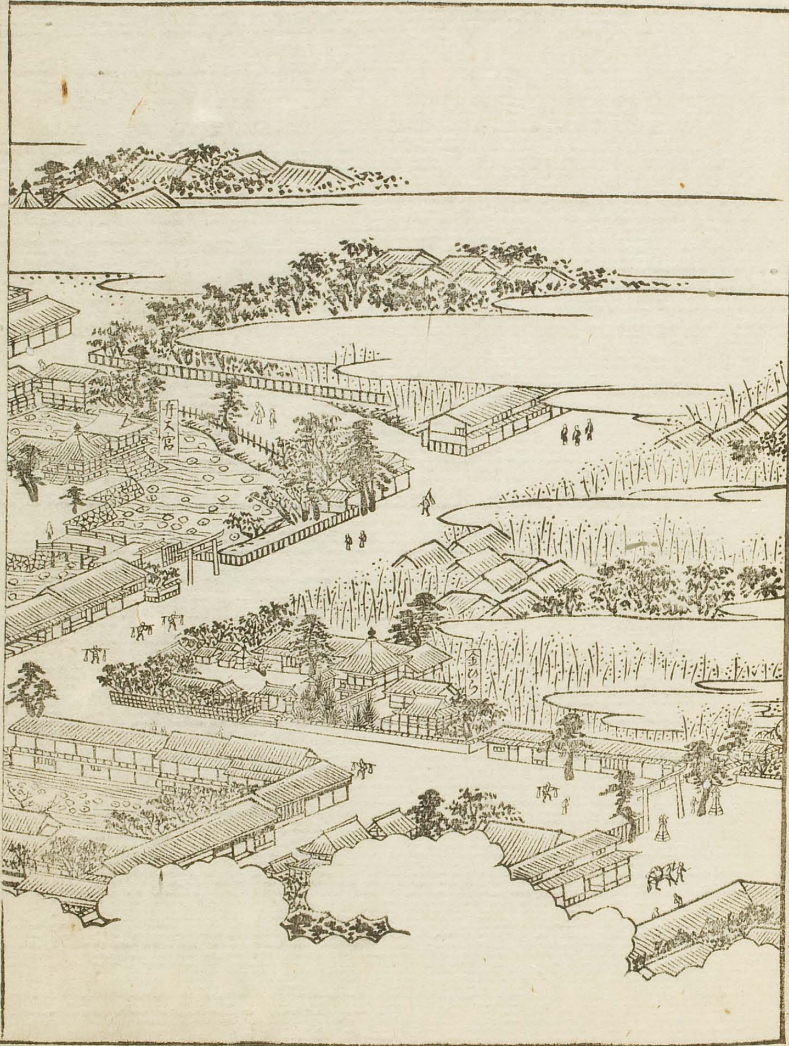
江口沘口

蘆浦

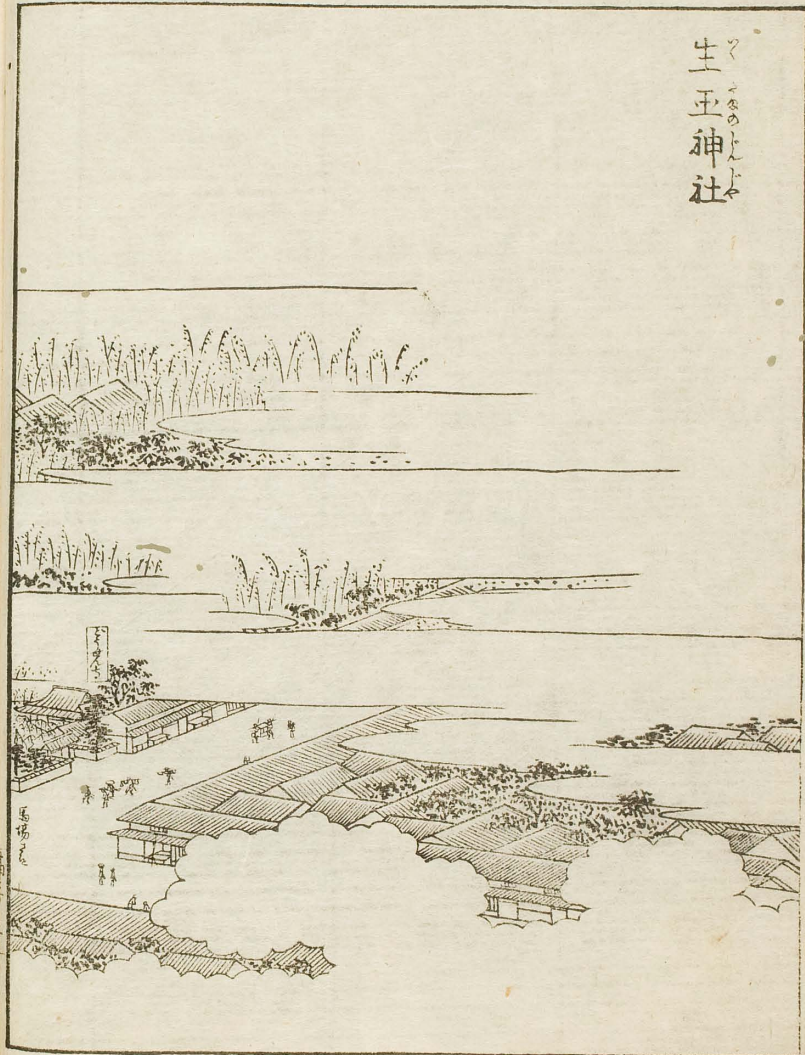
攝津名所圖會卷之三目錄

井上

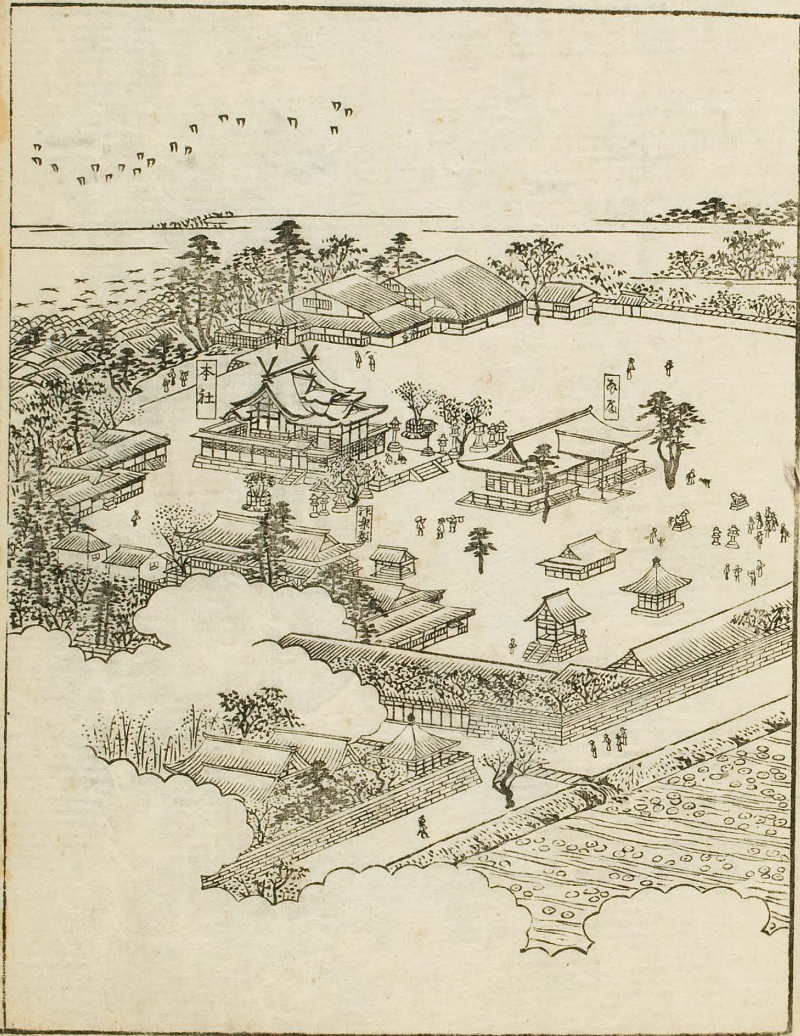




生五神社



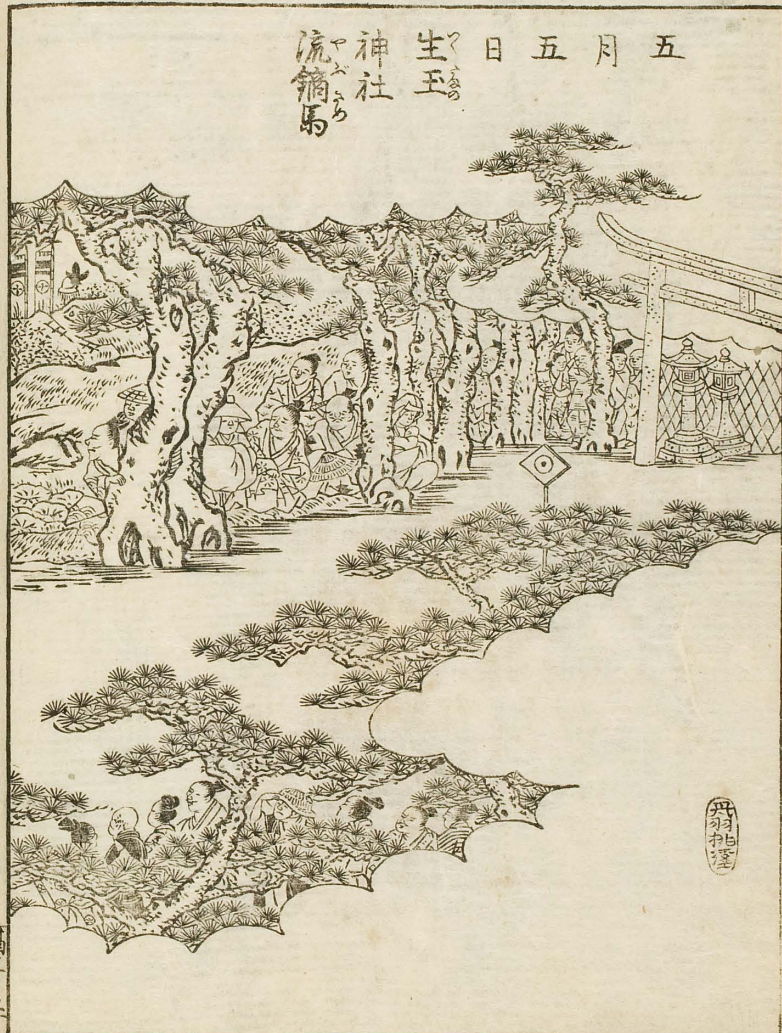
井上



生王の流籠馬
 天正の豊太郎
 市五郎の村諸士
 公馬場はさうく
 射術の極言あり
 小向備官といひ
 村殿の御方あり
 今の流籠馬といふ
 いふ人の遺傳あり



五月五日
 生王
 神社
 流籠馬



丹羽半三

五二五

難波坐生國魂神社

高津の南小なり祭神延喜式曰坐國魂二座名

春正月奉授從四位下秋九月奉常為祈禱祈馬禱事紀曰
新田部直祖也云云及上町市中の坐生神といふ例永六月廿八日
當社勸請のころは年歴久遠小して洋なれば社頭今今の
明應四年教額守蓮如上人所建の時アウハ側小孫ハ
其后天正年中牟信長と奉願寺顯如上人と樹テ年餘戰の時兵
燹小罹て燼盡とかり終小神聖と銘て小祠と營む慶長の時兵
豐登御金城と依浦一りの時今の社此小遷るは奉行ハ片桐
東市正且祀

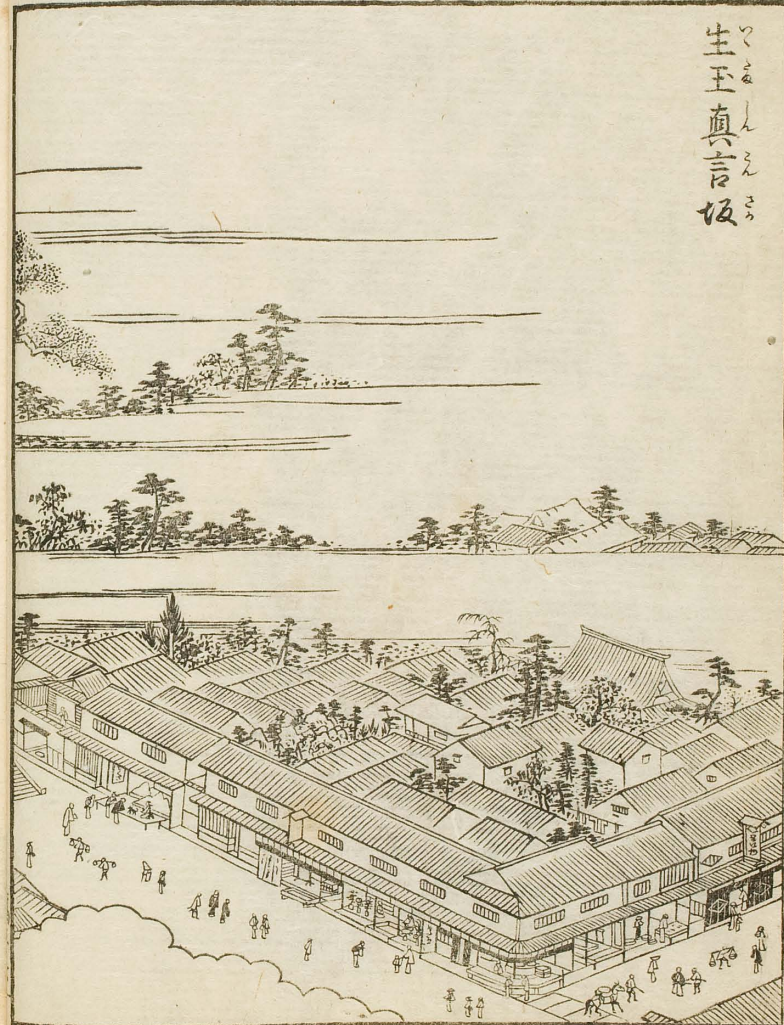
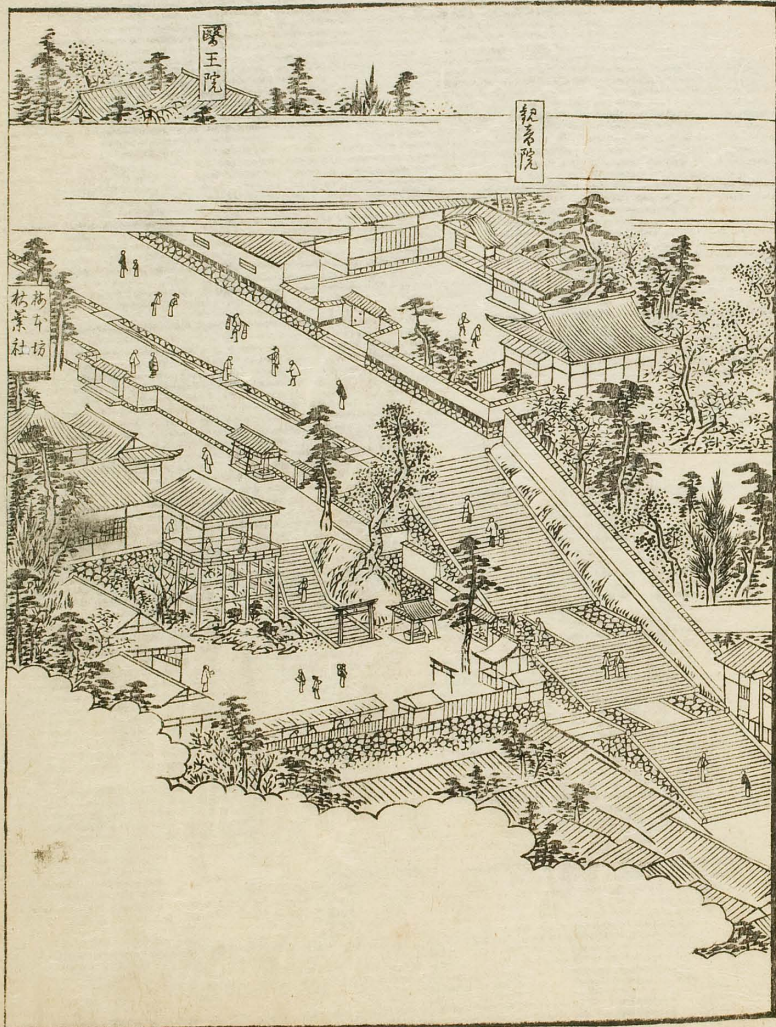
末社 小の方 天照皇を神宮 豐受皇を神宮 大己貴命 事代主命 少彥命
南の方 八幡宮 住吉社 嚴嶋社 金毘羅 權現
奉地堂 奉尊樂師如來とまり 大師堂 紹像弘法大師自作の
を子堂 聖徳王十六才の尊影とまり 聖天祠 境内南向
神寶靈 神輿小鏡より社僧の教小曰され生魂命 化現の靈玉と
神輿ハ官家 南方 社頭の北小あり社僧貫首とけ真言宗
志豆山は茶寺と号ハ

稻荷祠 南方庭中小あり
石燈爐 南方庭中小あり
社僧 後今坊新藏院 龜田院
觀音院 觀音院
高四人 社司 神主下氏 祢宜七人 社僧 後今坊新藏院 龜田院
觀音院 觀音院

醫王院 地藏院
豐園院 持寶院
とれ當社と祈雨糸云難波大社と稱とて生土廣く常小詣人多く道頓
堀より天王寺までの中間に於て繁花の地りて社頭の極の石の方と
通小見ると市中の萬戸の帆がらうがけが雲とほく小似る
殊小社檀近年再嘗ありて仕簾してま子が鼓の音松の音玲瓏
より境内の田樂茶屋ハ多柏子小赤蔽膝飄り門前の池ハ夏日
蓮の花紅白と揃へて咲乱れ池邊小眺む奈几ハ荷葉の白ハ
芳しく池を陽と成て涼き蓮がく興ハ馬場前の繁情唐
よりりの觀物齒磨賣の居合女糸文は世物まの賣ト法下軒端
茂けり切艾屋作り花店日々小新小して社頭の賑ハ市店の繁昌
と云ふ是神徳の靈驗と云ふべし

奈財天祠 御玉社境内門北側小あり傳云ひ海
妙見祠 出現の靈像とて毎年正月七日當會あり
内所西向小あり 慈三聖徳を子天より
感得一なりなりとて二祠南方支配

御玉社境内門北側小あり傳云ひ海
出現の靈像とて毎年正月七日當會あり
内所西向小あり 慈三聖徳を子天より
感得一なりなりとて二祠南方支配



生玉真言坂
なまごころんざら

北向八幡宮

飯沼門の南の方、蓮池の側、小舟生玉の社司、下氏守、護、清

の初、八幡宮と勸誘、年々中成中の諸士、此小舟、射御の秘旨、古場小

金毘羅権現

生玉島門の西、小舟、持明院と号、古義、真言宗、奉尊、八

聖觀音、長三尺、守、飛、彈、内、近、の、他、と、安置、以、金、比、羅、權、現、

秋葉権現祠

京師、御、室、仁、和、寺、宮、より、所、奉、神、中、て、若、守、の、鎮、守、と、云、

名呉濱

今日、日本、橋、より、幸、今、宮、本、津、繼、波、村、等、の、惣、名、形、と、云、大、い、

呉人の往來の道と名、故、名、呉、濱、と、日、本、紀、小、舟、今、の、住、在、海、道、

書、小、住、在、小、舟、つ、其、所、と、詳、小、舟、今、時、今、宮、村、より、鮮、奥、

移、り、實、ハ、各、呉、町、の、一、日、本、橋、より、南、の、町、と、云、長、町、と、云、

中、小、舟、名、あり、幸、小、舟、つ、これ、と、云、

住、の、の、か、の、濱、小、舟、と、云、云、ひ、く、は、自、忘、ら、れ、歩、人、丸、

拾、り、玉、云、云、之、善、と、云、此、名、見、の、濱、且、乃、杖、の、表、此、月、

那呉江

日所、形、下、入、

万葉

淡く勢きく、呼吸、此の、は、妻、と、云、う、河、は、小、舟、家、持、

う、舟、の、舟、の、舟、も、小、寒、う、ん、か、の、入、は、小、舟、も、つ、ま、よ、實、信、

此、の、は、小、舟、の、兼、と、云、云、舟、と、凡、舟、も、は、小、舟、と、云、基、良、

後、小、舟、や、果、え、ん、舟、の、舟、名、呉、江、の、小、管、ひ、け、れ、は、

那、呉、江、日、所、形、

那、呉、の、海、乃、は、于、此、か、と、云、と、云、れ、目、小、舟、と、云、

今宮社

中央、天、照、右、神、左、蛭、子、尊、大、己、貴、命、

每、祭、正、月、十、日、ハ、大、小、群、奉、祭、一、て、福、徳、と、傳、う、遠、く、以、神、ハ、龍、舟、と、云、

年、喧、一、社、頭、ハ、糸、を、袋、懸、蚊、小、判、糸、儀、白、銀、泡、等、の、目、出、交、交、

あ、と、多、く、賣、り、下、向、の、筆、と、何、と、例、と、云、買、求、り、船、の、棹、小、舟、と、云、

舟、て、賣、所、の、鳥、帽子、と、云、り、頭、小、戴、酒、樽、謙、り、坐、未、と、云、と、云、

凡、俗、と、云、り、垂、の、枝、家、の、内、小、舟、挿、て、富、貴、繁、昌、の、表、と、云、と、云、

食、屋、等、大、小、膳、一、京、師、稻、荷、

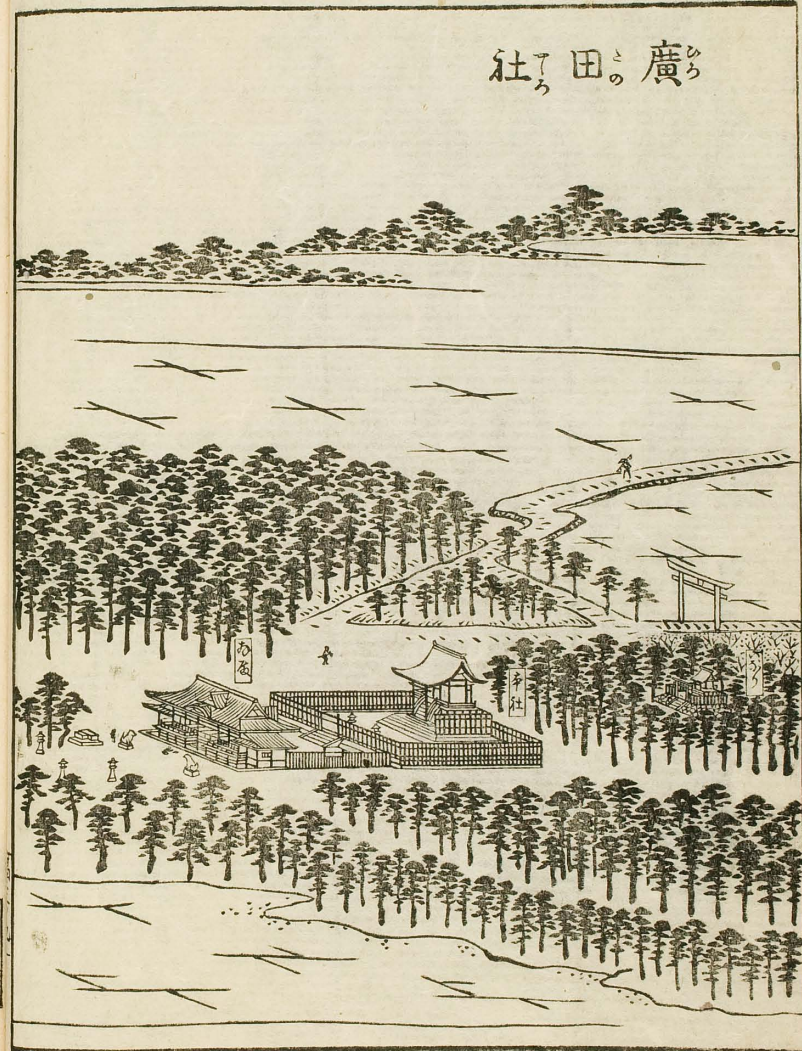
九月、十八、日、午、の、斗、座、鑪、馬、の、糸、奉、豊、後、相、撲、あり、日、神、輿、と、

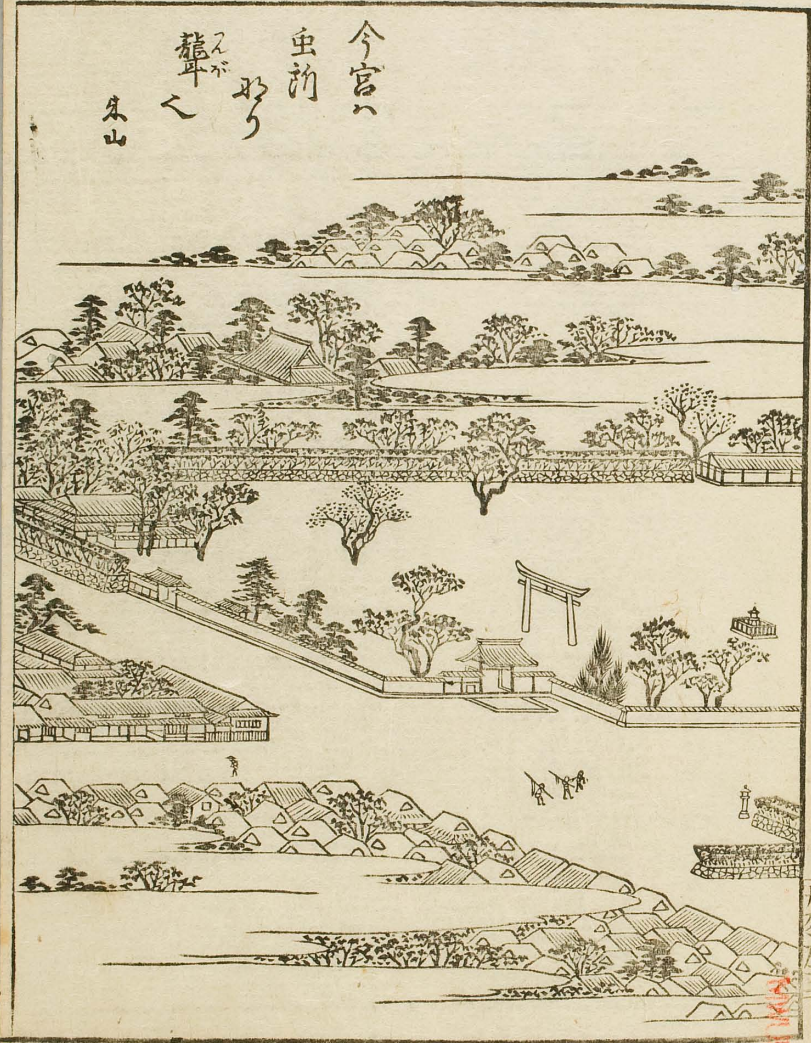
四、天、王、守、石、衛、門、小、舟、神、供、と、云、て、音、樂、あり、昔、ハ、天、王、守、の、鎮、と、



丹羽庄

廣田の社







丹羽庄三



丹羽庄三

海内三十一

廣田社 例永三月廿三日 神拜音樂あり

糸神 天照を神荒魂と稱仕小 法園社 稻荷祠あり

は今宮邑小朝役神役とり奉ありぬゆり今小至るまで忌履

りく毎来正月御厨子所の奉りて之内鮮鯛二尾 調貢と又内二尾

殿下献進衣家も献上の奉りて年頭所禮と勤む奉り例あり

扱六月七日十曾京師祇園會神樂三座の首六宮神樂の駕樂丁小當村り

村長附副百拾六人上京して神樂と昇り奉り日共小四は是古例あり

太永年中足利家古證文傳來弘治三年御厨子所論旨曰

御厨子所供御人攝州支郡今官庄董證文從往古於五歳七道設賣

買り業令停止關泊交易性及煩可後進日次供御

祇園社駕樂丁朝役大於他所企新儀依成他家扱官後方々

相懸非分裸役を不可於所治強為諸役免除之故專 公役旨

可被下知者之 天氣如比悉之狀

左中辨

弘治三年四月十日 天正九年村井春長軒 貞勝判

今小忽轉々朝役神役と勤り其文云 祇園社六官駕樂丁攝津園今宮神人發賣買り業奉任

御代 論旨并御下知旨可專朝役神役之狀如件

天正九年六月七日 村井春長軒 貞勝判

毎年祇園會兩日駕樂丁百拾六人今官村り上京して神役と勤る奉

教應公處りて其初は初奉社に京師四條通油小路小幡宮あり社殿

小井の幡水より今官村極々官の拜領地と接する小古代神役の宿の地を

今小至りて幡水町より地の口系斗餘と神役の軍馬今官より福徳の

神札と送つて謝は例も其ころよりして

勿事ありて祇園會の所々より古例多

赤山蹟 今官村小あり其商孫存に赤山は原場津の産りて壯年小居は

額と後山の筆あり其後比里小剛居ハ其草菴と十萬堂とあり

世小傳る鹿花の逸人あり

梅花名小傳りてゆひゆ那 赤山

みくねの寒一日暮のやほさく 日

時を裸て起て橋 二門 日

早乙女やよこれぬものを守げり

初表と四ツ河くく秋小成小々

丁細小入日俗はくくこれ

女人形記 は陶工女人形ハ長を尺計座して膝と

西行法師小浪の猫と落ちたる小門あのをき小うらぐれて通う なるは
ひく社下ら家と通してまききの人形小切あひ懐ふて家の隅
登と相下小まを置て眼小収ひ表と枕上小や寄手坊て縁まの
伽也と赤世とけくくと見むら妻本の蓮下かと伝崇めて科も
な其身と目眼けらちりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
ぬるう小髪 脳筋に 腐氣を 登蚊の けりけりけりけりけりけり
居位の尻崩さば 小待らんとのたまひも けりけりけりけりけり
れとさり 氣小物くくぬへ 一時雨 衣裳を けりけりけりけり
きひは方氣たりとさるさるけりけりけりけりけりけりけりけり
撫さ小をくさるけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけり小臈上小置時と呼吸小まをけりけりけりけりけりけり
うをけく女の石小かろうとさるさるけりけりけりけりけりけり
すけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり
何園の土とぞや出所とさるけりけりけりけりけりけりけりけり
折事もさ根の花や見とさる

折事もさ根の花や見とさる 徳々老人末山

星ヶ池

今宮の東門の小小あり今水園て田と形の子傳云 聖星は比小
池とて運八鳴とりよの小池とて明ふ其言葉云

あまの原南小めくく星ヶ池の草もさるさる小と

まよふとて聖徳を子の内幸八徳これと奏とれしを子宣ふ天小五律
有聖感星と五行の中乃有と司どりて色赤く火かりとさるさる
幸を子傳小見とさるは
還とれる幸 詳をい

本津鰐川

本津村小あり天王寺伽藍建立の時良村小小替を津あさ
小川て多川く願泉寺の縁起
いも又とさる其證詳をい

難波生頭天王社

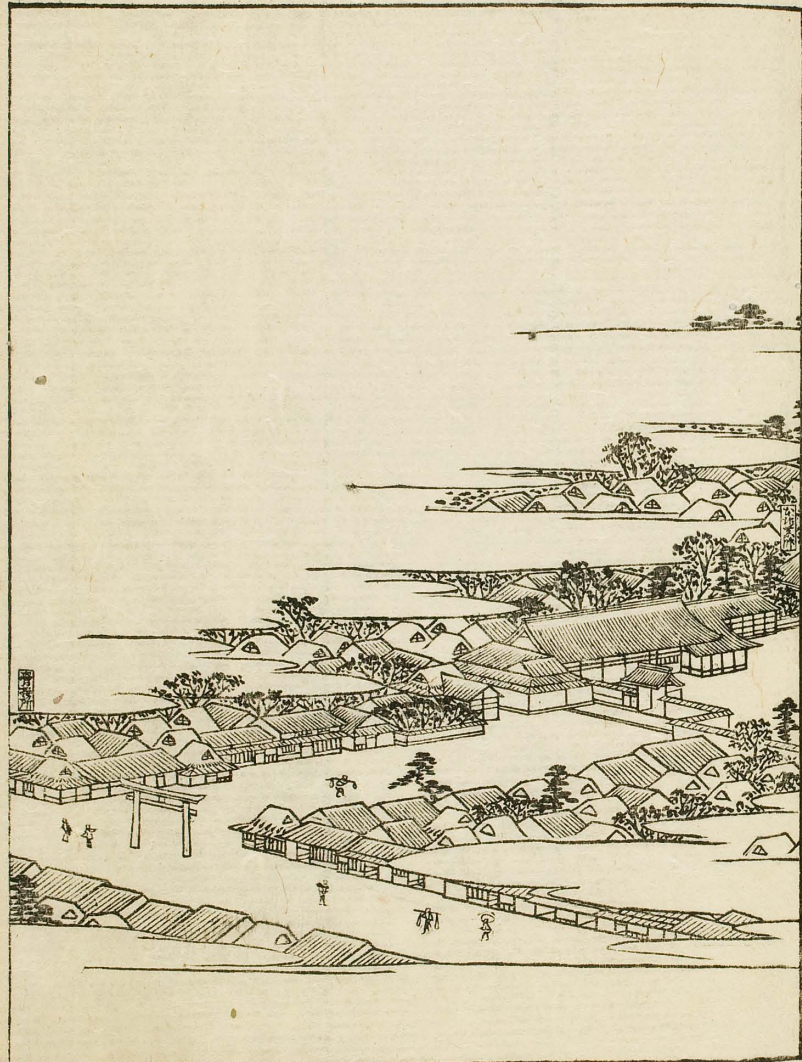
難波村小あり比の生土神と久末社八王子洞稲荷靈
待神天満宮 歡喜天 采女宮あり 例祭六月十五日
宮仕以大門坊とて奉尊小深砂大王と名多 門天の化現あり
いよとて佛度とて七堂伽藍の地と今大門坊深砂寺といふの十
二坊の一はあり伽藍は兵火小
感せれて荒廢なり乃よ

難波清水

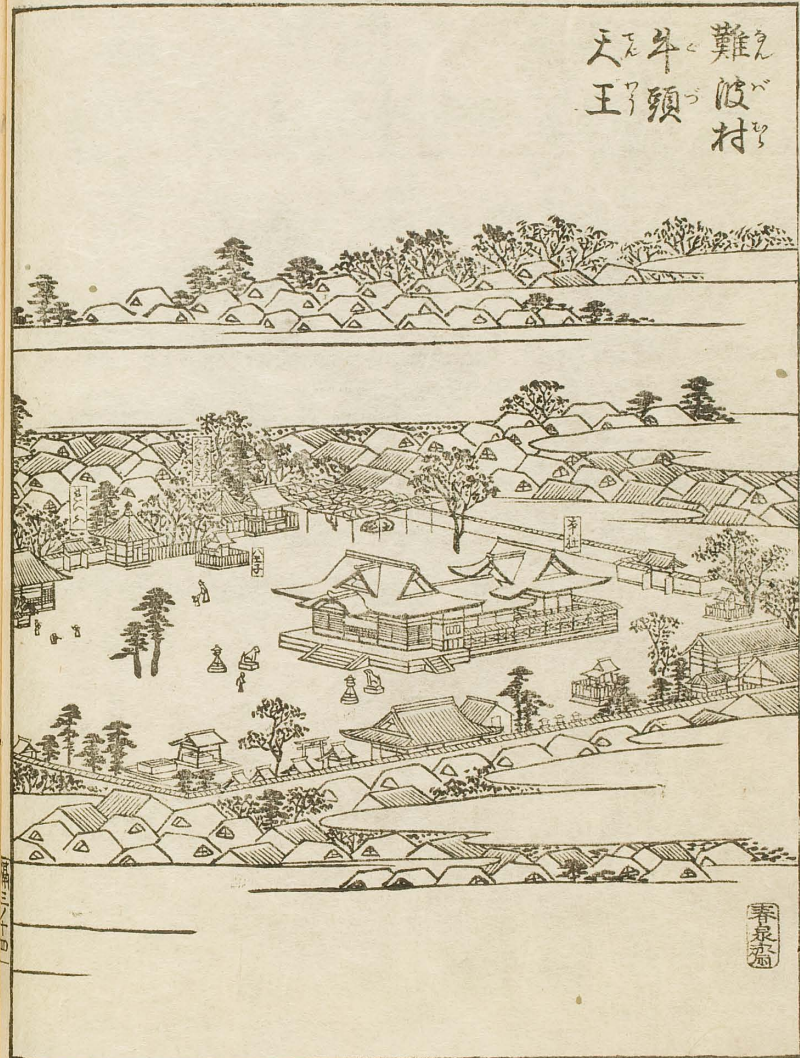
難波村田圃の中小あり一名芦 柳清水とて 難波
てて意味なり民家とれと取て用とん

十三間川

又の名新堀とて本津村の西小流て伝名小通下末と大和
川小入元禄年中小堀跡にむけはと小河内川とてあり
荒凌の南より本津難波と流て本津川小至る延暦七年撰津
をま和氣朝臣清和朝臣執ありて田園ゆる小堀とて心單功二千三
萬餘人と用ひて糧と給ひ
其幸小徒なり心續日本紀



難波村
牛頭天
王



春泉画



又入り

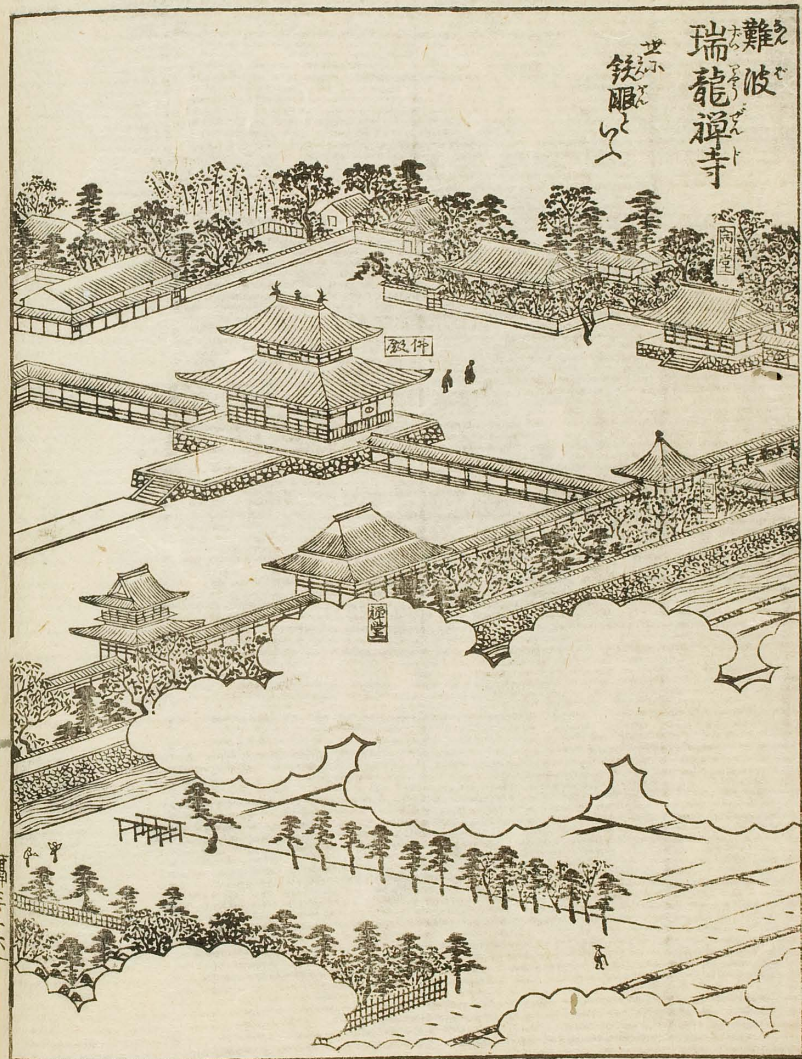
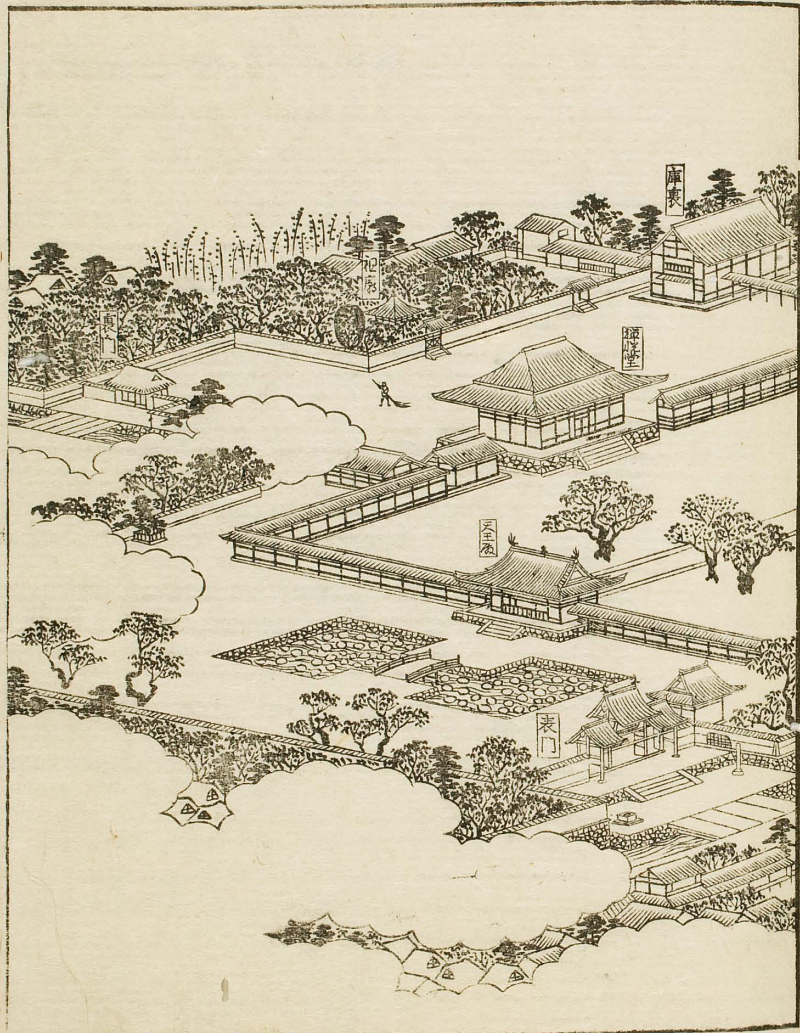


難波村
年頭之王綱引

每逢正月十日正月の入り
左右の綱引は其本郷と
引く其勝於其本郷と
といふは其本郷に因り
は其本郷ありき
十六七日をりあ
前以祭の懸ひ
根は少くまふ
我前ふり合
えりては
後け後れ
し方と
は根のま
唐の海之根
とまひ合
強弱と
引合と
五指組と

難波村

井上



慈雲山瑞龍禪寺

續修村小端小わり

佛殿藥師佛

十二神將

天王殿

中央弥勒佛

左右四天王

禪堂

祠堂

鎮守

禪收堂

佛殿の石

先師殿

法華殿

慧日照入

天恩光

萬類悉

瞻依

寶殿新屋

法華殿

表門の額

銀眼

雲山玉秀

萬古祥光

海衆匝仰

凡規

山雲

和尙の華

瑞龍の額

玉顯檀功

後國祐民

翔彩鳳

天法護

天王殿

觀承佛勅

護法

後僧彰願力

宗鏡堂

禪堂の額

服資堂

高泉齋

四息共入

光明藏

寂

勝兆弘

法永

雄盛德

禪堂

三有均登

解脫場

照

慈雲

廣布

萬壽藏

普明元珠

禪收堂

茶供飯

信慈

勤道

眼貴

圓明

本庵

夫當寺の因基と鈇元和尙之其初の藥師寺とりて邑支配の寺あり
寛文十年和尙より小止住より春の肥後園奉願寺赤下の寺小止住流末も
わしが其宗徒不徳无才の人寺格より上位小居る事と甘むせ黄
檨山小登り本庵禪師小從入其妻形人尋たりしとも弟面せざる
成りて黄檨の門小格宿して師のありと窺ふふある日果して出
ると強て誘ひをれ止事とえ代侍ひて故國へ歸り其郷に入ら
なりて上途へ又黄檨小寺法と嗣へ後延寶四年雲山と建せり
世の人今をば袂眼とりて寺法祇徒一切徒の職板と云ひて勸進世
小其料を聚むる以て天下小餓へかは師憐て件のを成法に施へ又あ

の如く小勸進せる小ね年あはれ又集うるが再び五穀不熟して餓
死多かれれば必しも命を施す小盡せりうれも徳の至りしや才三面の教進
とて職修の予刻成就して其修と頌川の代令成存奇より己下一
宗の奇く小配とせし今於て月一は師佛學修く説法能辨して俗間
と化なる事多かれは殊に行實録小見しれは小畧れ

瑞龍門山鐵元和尚行實
師諱道光鐵元其字也以前寬永庚午年正月朔
日生於肥後國益城郡佐伯氏有淑德師終出襪
尚佛乘晚入蓮社母甚鍾愛之年甫七歲父授襪
觀經十卷能暗誦十三卷法師講起信論往而聽其
說聲入心通慧解資庚寅春與同志數輩負
笈入洛徧遊講肆生墳魯典無不精研矣由是
有聲譽絕出於四方明曆未秋黃檗隱老和
尚東渡寓長寄之東明師欲禮謁期舟大坂偶
得寄主黑川善信同載而往更衣入東明備陳
求道之切老和一尚見知為法器隨衆參堂
其從前所學和一尚一時捨晝夜孜孜研究已躬下
事味幾老和尚應請于攝之夜普門時木菴和尚

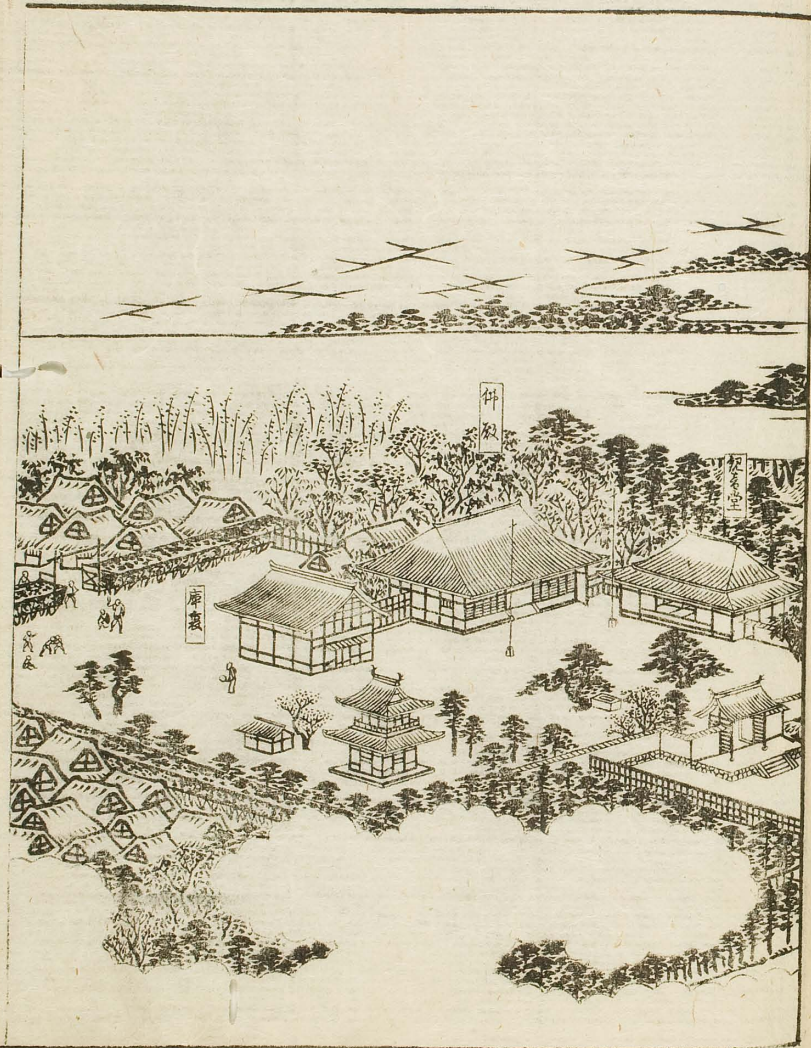
主分紫之席直前咨一入室捕捷出當仁
不讓和尚打越入普門禮和尚再往分紫乃
孤雲無所留礙入普門禮和尚再往分紫乃
得入室中畧寬文壬寅歲夏滿圓壽陽早魁為
震師射七日為期率衆誦嚴咒為民祈雨當
甚悅師嘗慨吾邦古稱佛國自教法始東被伽
藍像設不亞支那名師碩德代不乏人獨大藏
之版向未刊行於世者非為國中闕典歟契
經有言善薩萬行中流法寶為最余幸生清
世忝廁紳倫誓盡此身當力為之編與邦人永
結般若勝緣因而攜二子當千之編與邦人永
藏於月江精舍時有觀音寺妙善信請起講
論於其刻尺之高閣成在初基今有基刻成全
喜曰聞其尺之高閣成在初基今有基刻成全
藏必矣急登黃檗啓告隱老和尙利化尚大振
老僧如意但願者將軍賜地建寺化尚大振
聞此勝事老僧願者將軍賜地建寺化尚大振
那藏亦老僧願者將軍賜地建寺化尚大振
躍建寶院于其地開印房于京師先檢目録
列數函棹人蟻集施者至殆不減紫拍大
師之時遂命役于諸子特往倡緣於武江講
嚴於淺海雲寺當是時也諸山碩德一時名
公至若武夫悍將街童竈婦恐無席之受露宿

丙辰春省木老和尚問答之際機緣契合親承
復赴武江閣老稍葉公聞師之美不巳戊午秋鏤
及將法藏之功乃製表章隨經上進
太將法藏之功乃製表章隨經上進
繁多而龍顏大悅謂羣臣曰大哉卷帙如此
實龍之天下後世者志可謂堅且確矣法門功臣
瑞殿乃講楞伽密經以落其行道稟官遷地建大
雄演法然誣他其家於毒殺其主人累聞于官師
人以其罪而誣他其家於毒殺其主人累聞于官師
憫罪者有罪而誣他其家於毒殺其主人累聞于官師
餘夷大將軍復赴武江閣老稍葉公聞師之美不巳
征龍武末道有武江閣老稍葉公聞師之美不巳
山龍武末道有武江閣老稍葉公聞師之美不巳
荒龍武末道有武江閣老稍葉公聞師之美不巳
乏日免時病勢稍重三月七日漸減諸疾作爲衆
不異世時病勢稍重三月七日漸減諸疾作爲衆
知不起從容將三月七日漸減諸疾作爲衆
既而云僧化道將三月七日漸減諸疾作爲衆
刻藏一車唯念佛法慧命所關之者也是故山僧一

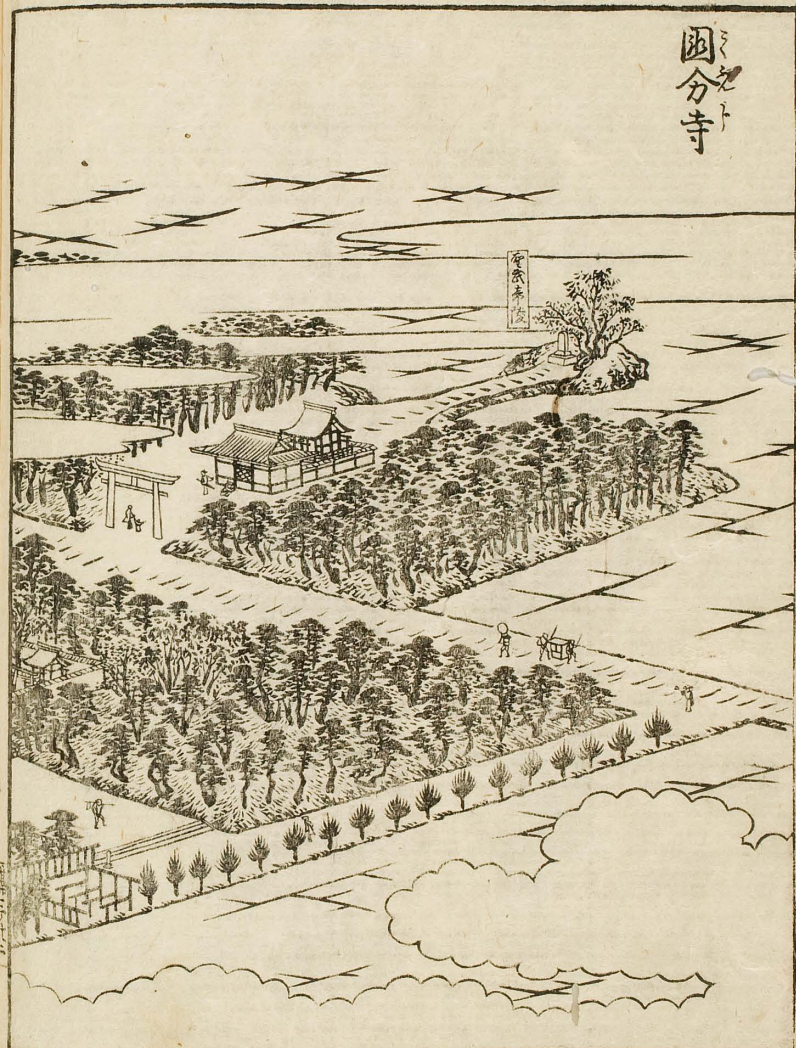
以俟時曾幾何資填委其法會之盛無與
同者中畧味庚戌春難波諸善信重修藥師寺
請爲中興之祖宿緣有在幡然而至易其名爲
慈雲山瑞龍禪寺遠近學徒嚮風奔走如龍就
下如雲歸壑伊氏掃雲院夫人辨海藏菴王輪
復赴武江居馬路外安住鑊湯炭虛空中
嚮頓起明和尚黃髮東徧救東林其地高遠
可離火患和尚黃髮東徧救東林其地高遠
書遂將其地易爲甲寅昏聞師大感喜營建大庫
勸修淨業易篲之火後轉其所居之宅爲三寶
寺以奉考妣香火太細川源公親迎城中嘉
師言行純慈數日誰知我國有此人誠國富也
虛心問法極加崇禮自時厥後年捨黃金千錠
以助刻藏嚴經時琉球國王薩州之鉅利名曰
福昌講撈嚴經時琉球國王薩州之鉅利名曰
問法要豐州久留島太守與師素方外交誼
迎請講經于安樂寺師力宣揚佛旨地有無賴
之輩厭惡不置大集遠近衆將加害於師併脅
太守師神情閒曠若無所聞太守聞其事遣僧救
出守感曰報仇以恩者其師聞之謂賊遂赦之
刻藏一車唯念佛法慧命所關之者也是故山僧一

紀之閒歷盡百苦今已告成汝等宜體我心使
疾師對使謝恩次日修書謝諸護法其數日間
來問疾者絡繹于道二十三日索紙寫偈曰
七顛八倒五十三年妄談般若罪犯彌天
優游華藏海踏破水中天
書畢泊然而逝實是日已時也乃符昏末大有
車之言識者異焉享報身壽五十又三服沙門
衣四十顏貌如生茶毘之日送者餘十萬人各
持香華旋繞為供號泣之聲震動林野其退方
徧鄉未曾謁見者聞師謝世靡不動息老和
尚遺骨諸方尊宿各悼以偈蓋嘆法門之衰也遂
奉大藏之意也佛國高泉和尙嘗為師題真云
者老子德難窮僧中鳳泉和尙福足惠足完通
以發其玄覆錄之失有蓋代之功對萬指之雄談
列國名微九重非再來之聖教而忘其苦功道揚
巍錄師儀貌魁偉志行端直謙讓自持不事煬
飾慈和溫順無有涯岸而有山容海納之胸襟
光風霽月之氣宇學通三藏知辨縱橫非古德
履來而了夙緣者安能兩耶自卅歲脫白及瘡
日月不能老及乎與衲子激揚筒專痛棒熱喝

無少假借至於應病與藥能曲施方便唯恐
夫不離其解者分是故醉心浮華者其所欲
消意解者分是故醉心浮華者其所欲
不離其解者分是故醉心浮華者其所欲
則前官請免其私慈利物一出於天性無所勉
強事係刻藏雖於私顧講演論凡一十餘會
聽者動至數萬所施利悉為刻藏之資故戰
化之後禪囊無餘蓄凡初寺院者八日寶泉曰
命所度弟子若干人受戒法云法名者指不勝
屈或謂曰我宗貴在明心見性然師常講經
論豈不違直指之旨歟師笑云子何言之易
也夫禪水也教波也取捨禪捨教則如撥波求水
教器也禪金也取捨教捨禪則如撥波求水
離水器即金也取捨教捨禪則如撥波求水
稱性則縱說到彌勒苑終至改提河未嘗說
覺世尊言始從鹿野苑終至改提河未嘗說
字亦有以書寄天惠和尚請示公案大慧答
云聞汝常講經論又何傷乎或者不能言而退
此會取詩偈凡有求者肆口而說曾不絲思
師罕作清整皆有求者肆口而說曾不絲思
然條今附藏流通徹妙不許留稿遺錄僅有
二卷恒思其訓誨之思何異乎天覆地載歲月
詳恒思其訓誨之思何異乎天覆地載歲月
俱已過三十其後生進知師之用不揣非才
矣更過三十其後生進知師之用不揣非才



函分寺



岡山

岡村小あり大橋命の廟所なり命天理屋根命十三世の裔孫
神功皇后の御孫雷太郎の子大御冠鎌足二十世の遠祖なり

國分寺

國分寺村小あり禪宗黃檗派天徳山と号し中興南原本尚
又西成郡南長極小内辨あり竹れ國分寺なり

今尊聖觀音

黄金佛長き六寸往昔聖武天皇御推佛といひ
相好に堂中あり右手小腕と掬て奇也天竺伝といふ

聖武帝御塔

元禄三年少門光巖和尚當山の初め奉鎮の
帝はれ其報恩とてありと管束る

佛殿額

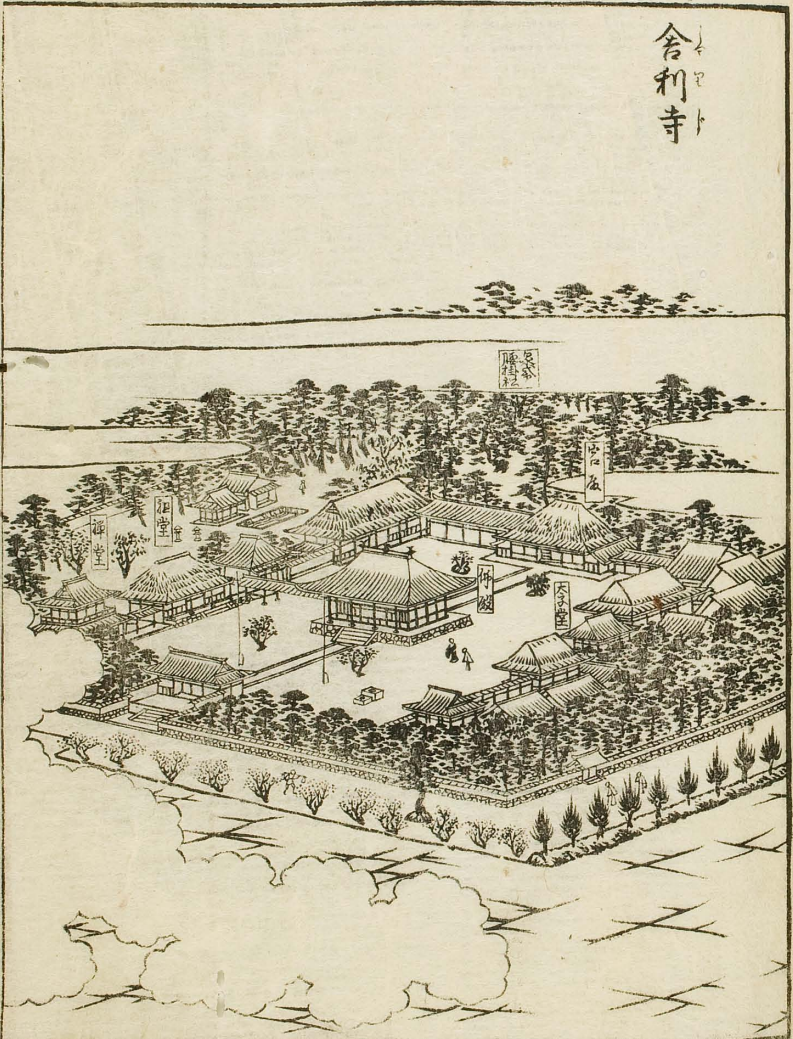
玉臺光と書入 露柱聯 天安聖王千年地
佛放玉臺百寶光 悦山筆

古筆水鏡

書は小あり古代の石器ありて奇雅
上古の塔の片礎といふ

これ諸寺の日藏六十余州國分寺の二院 聖武帝の草創を奉るも
則は帝宮中小於ての内念持佛の年泰積りて伽藍を觀感し漸
本尊と村中の草堂小安置れ延宝二年黄金佛なる奉とて茲賊
くれと奪ひ取つて行がかり同八年の春壁山内小弘まる時明の
御州の防門南原和尚古寺の旧跡と求て國分寺と再興れ同年十月
廿三日夜々人の道者觀音の像と持まりて曰られはとて當山の卒
尊之怒の 賊徒といひ方々 今故再興の志願後かたや
てえの地(還居あり)りして卒尊と堂内小置てさきりやと云ふ
杖を擧げて入れば初めの卒尊と成奇異とて以て所小又亦郊の
権徳といひめくの本像と寄附れ今の禪堂の卒尊とれ須臾より
金床の二神あり 今車奇代とて遠近の貴賤尊崇尊
又當村小雷鳴なり 雷流りこれ又卒尊の卒端なりとて世より
雷流の觀音 貴と云ふ

舍利寺



南岳山舍利寺

舍利寺村小あり今禪宗黃檗派
初めの開基聖徳王 中興本庵和尚

佛殿釋尊

右大殊草駢天 額 舍利尊勝寺
右普賢達 磨 本庵華

聯

舍利光海齊瞻洞慧眼
岳拱秀王寺護掖宗風 本庵華

天子堂

聖徳天子四十二系 堂内額 曇華舎
尊像と安ら 隠元華

聯

護國庇民海見聖恩天廣大 隱元華 外額 石ふ堂
現身圃依始知大徳月昌明 本庵華

禪堂額

反山 祖堂額 無盡燈 表門額 南岳山
華 道宗華 本庵華

聯

聖地中興臨紫氣
宗門大殿起雄風

天子御影

當寺門前小あり高五丈許一を糸火の厨諸堂灰燼し
なりをの御影飛ては松枝小くう慈観しとと

和泉式部腰懸

書夏の庭中小あり
詳あり

新古今 尼小形んと思ひまらぐ人のまゆぬれ
あはらうらんと思ひて好くまれらるるおとせ

又當寺を聖徳をの草創しゆい里小生野長者とり者あり

長者がる生質亞ありし小より又母大慈悲歎し神佛と祈る事
後かばをふこれと凡ふ聞はれ長者がふとありて直ぐと予が前

生もは小毘婆尸佛の舍利三顆は成重う今予小く與下を命ト

ゆ其時野の口より佛舍利三顆と吐出しを小まらぬをけり然る人

奉と降うをふ即二顆の舍利と天王寺法隆寺小藏欠一顆小自華

の御影と副て長者小附與一人因茲一字の精舎と建立し舎

利寺と号け生世長者が旧棲を以舍利寺村と星霜累るる如監も

荒廢し漸をふ堂一字存在せり寛文年中 將軍家より黄檗

山本庵和尚は舊比と賜入延寶三年收山和尚今の如く新く建管

わつて舍利寺と號し本庵は中祖とん

欽明天皇神祠

天王寺中町小あり上野宮と稱はれ所の生土神なり御祭
八月八日攝津志云然野御祭祀小見くより上野玉ふと

以尤ら天照を神なり
は社記をたふ形なり

野中觀音

東高津野の中あり遍明候と号れ世小難儀寺とりのと 謬あり
以辨と天王寺小限の率なり

本尊十二面觀音

僧正行基の作りて長六寸三分脇士不動尊毘沙
門天はさ像和州長谷寺の本尊と日本よく悉く其

傍影候の寺々多かり日向の宮小ありし故ありては川三井寺が増院
小移し後世又あり小體むらと寺記小見くより



延喜六年 竟良女
 かろ衣
 下田の娘
 あまにやい
 田舎かろ衣
 當時



小倉子
 娘古曾神社
 産湯清水
 岩船山
 味原池
 楮井津橋
 胞衣墳

仁徳天皇皇居

日本紀曰

天皇元年春正月丁丑朔己卯大鷦鷯尊都難波是謂高津宮云云

百葉

大宮の内すまきも綱引すまわおとこのよ海人の呼聲 讀入るん

日 桜花いほさうろの雅波の海押てる官小圃一り尺形り 大伴家持

金吾

いづの雅波のよはあひをてす津のえ小月の燈をん 泰儀師棟

新勅

まの衣は月小むりもあつ高津の官小圃一梅りえん 實徳法師

日

荒小々の高津の官の子規准小ふはのこことかゆん 權中納言

玉

ゆり小々の源小公のゆきすゆをさす津の雪のわけはの 藤原隆房

皇居の地年奈久遠ゆて今詳おん 仁徳天皇即位より今寛政十年也 邦一千四百八十三年小形ゆ

舊記古言と考ふる小東生郡の内百餘也 百餘形 猪耳也 味生也 指入す

は地相と見るに公遠一堆の丘ゆて東北の連山香小西南の滄海神社往

るより當圃の勝地實小四神相應の地といひはる 爾雅曰山南水

北と陽といふこれ中華とて洛と創させぬ 基とを劉名圃小阪南圃乃

觀干京京師之野されと鄭箋曰都邑は官をまこと所といふ 朱註小京を

高丘形り師を衆高き丘小衆く居るとる 之郊て今大坂三郷を陸泉

少く味鹹くして汝氣わりは地を特小陸泉多く甘味輕くして四時

洞れは涌出せざる 幸寒暑小變るん 所謂產陽清水山下陸水玉造り

ふ 山吹井織部尾呂前井誓海舟もあり 上古より然と建させぬ 大坂

大ね及び皇居の舊蹟も今小陸泉多く 其外大社御蓋地多すも頗名

水わり位右の忘水天王寺の三名水昆陽寺の行基水垂水神社の垂水

仲山寺の大悲水寺記さる小陸泉か 初皇居と云ふ也 時才小陸泉

と撰りて月へり水脈を人力小及ぶる所 之源順の河原院の賦小人

物のまれも煙霞を愛らん 時世を改然も凡流改らんと書くをこれ

ら 今協ひ侍らんが其旧趾と按ざる 小都城の封境は方一里許りて

東方の河内圃小直り皇城の疆地 東は百餘川に上町北は玉造り南は百餘

聖代障の官城の小橋守町の西の方今の橋本原これと主人 御殿谷といふ

又或三東有都谷西天伴郡大は居北味生阪高登 今土人 南面へ甜
指町の地ありて皇居ありしとと枕れども 年奈累りて森田碧海須
史小のくはるおひねれ今鮮小まは本終は内 根津一州の中小皇居
と形(元地外小見ふれば的らるゝても遠くふの介按たり

小橋里 味原郷小あり大橋命の鍛舎の地あり旧跡小橋村の西小橋京殿
とて入宮の地とて大橋命曰大橋命の地大橋小初てト、弟の

産陽法水 味原の南小あり大橋命の産陽の地とて名泉
とて産陽命小橋命とて四時廻れを味原の地とて

胞衣冢 味原の武町許東あり大橋命の胞衣とて穢り所あり土人
過りては冢と穿川時を忽忘牌して頸の髪披落るゝ其崇とて

御館祠 今岡村の生女神(土人いそく神といふ
仁徳帝の殿の田蹟あり)とて

百隣川 今津野川といふ故名那平とて流と合利寺猪飼中後寺とて
鴨也小至て故大橋小入流の道障敷町也土人嫁戀とてり入

六橋 くさ川と勢流とてある駒のありの浦まに屋小なるを
ま本 世の中小流とてり百隣川取れりぬぬ我身ともく那 後損

猪甘津橋 小橋村の東くさ川小架り橋とて一名鶴の橋
日本紀曰 仁徳帝十四年を土月を橋於猪甘津即号二其

京中道 山小橋村味原の南小ありまれと今京街道とてり
つあり仁徳犯とて禁裏の南門の枝小徑園ありて直小内園丹

梅大け 京の中道より上大道條(あるはとてり
畔のの盤)とて旧名の残るなりとてり

百隣寺 百隣堂の中小ありとて名は堂が芝とてり
或は名無傷久を即町(百隣町の辨)とて未甚

五樓山 本村小あり(くさ川)の比賣古曾神の所あり
後世玉造小後

猪甘津橋 修造勅宣
仁徳天皇勅造小橋國師甘津橋成作事訖
供養導師快賢並可有孤獨貧人施行蒙
勅誼訖
養老四年歲次庚申秋八月
癸未朔十三日丁酉

從四位下 臣 山守

山守朝臣人皇甲三代 元明帝の臣也 和銅七甲寅年叙從五
位下 聖龜二丙辰年為遣唐使 養老三戊辰年叙從四位下

京中道 山小橋村味原の南小ありまれと今京街道とてり
つあり仁徳犯とて禁裏の南門の枝小徑園ありて直小内園丹

梅大け 京の中道より上大道條(あるはとてり
畔のの盤)とて旧名の残るなりとてり

百隣寺 百隣堂の中小ありとて名は堂が芝とてり
或は名無傷久を即町(百隣町の辨)とて未甚

五樓山 本村小あり(くさ川)の比賣古曾神の所あり
後世玉造小後

漢父開

日本紀云 推古天皇廿七年秋七月攝津國有漢父沈 罽於掘

御幸宮

祭神 祭神 祭神

味徑宮旧蹟

小橋村小あり日本紀曰 孝德天皇曰 維元年春正月辛丑 朝車駕幸味徑宮觀賀正禮是日車駕還宮 白雉三 年冬十二月晦在味徑宮請二千一百餘僧尼使讀一切經是夕 燃二千七餘燈於朝建内使讀寔宅土側等經於是天皇從於大 郡遷宮新宮号曰難波長柄豐碯宮云云夫本集味徑宮抄津 國味吉郷と云は今の東生郡と云は津志小味徑宮旧跡下 郡味吉郷と云は

夫本と云

田鶴の形ありの浪小袖わけて味徑の宮小月と云ふ

難波宮旧蹟

小橋村小あり續日本紀小舒明帝 聖武帝皇居と

万葉

法藏山

法藏山の傍水の丘と云ふ 孝徳天皇多くの僧尼と聚て修と 形は紅小瓶池多あり 土人俗小瓶池谷と云ふ

方七寸六分

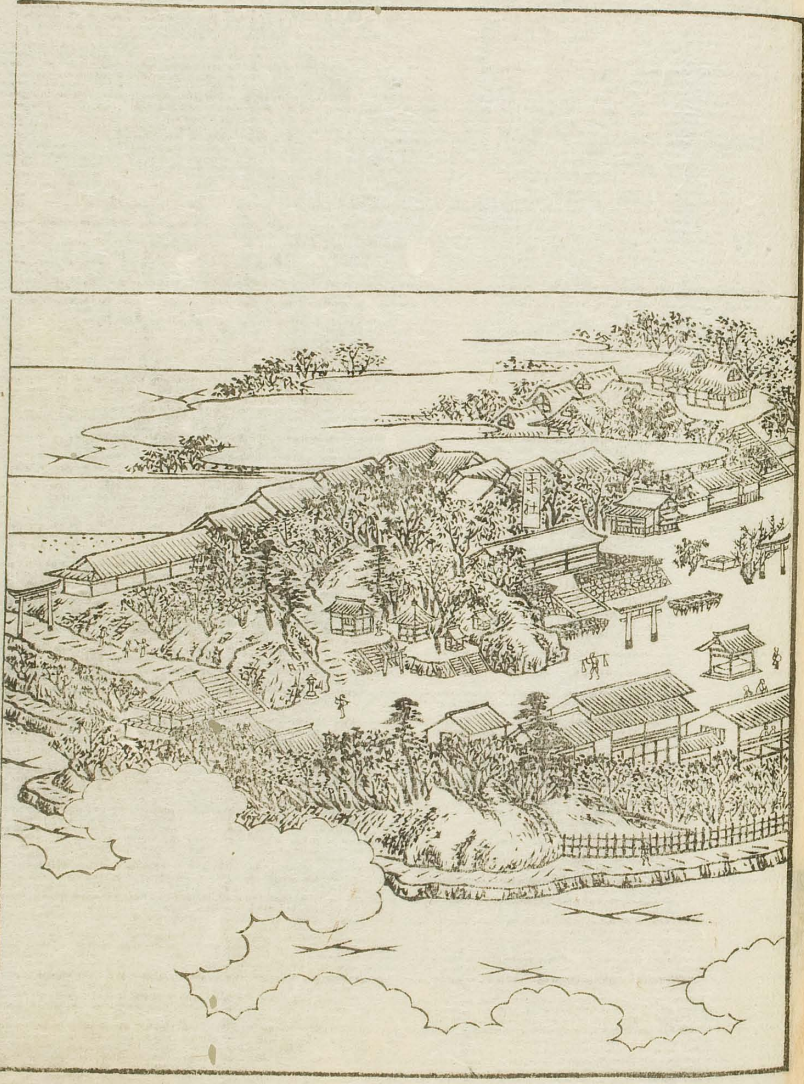
靈蹤梵碑

- 御嶽谷の燈油壺の蓋と云ふ 山小橋村大藤老人と云て 寂圃庵小持奈一今比 賣許曾神社の神寶と云
- 等由良宮 推古帝あり
- 國政岩 聖徳太子か
- 石花女園 甜甘津橋の 東三町小あり
- 白鴨御池 味原庄の石と 今の甜指町に
- 大小橋山 當のあり
- 埴土度 ツチケと讀

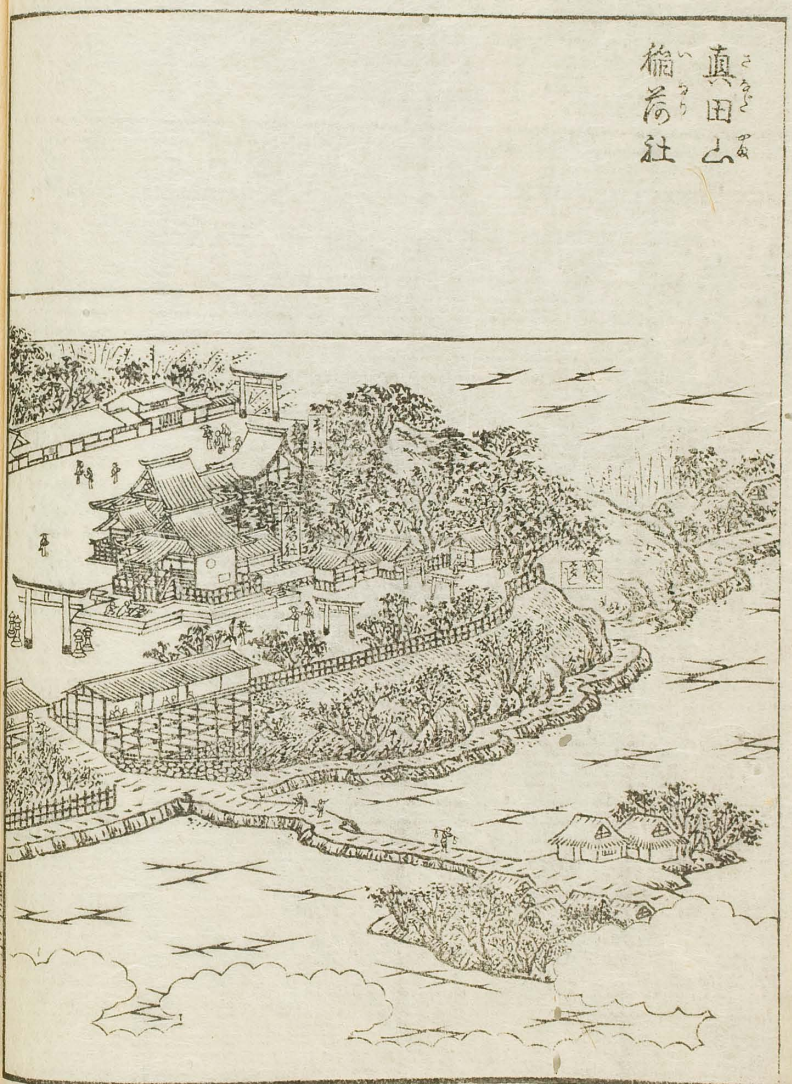
外布目

裏伍策之内末

昔田良宮治天下 天皇三年甲寅藏
 次皇四月兼 国政君命補高津之
 宮皇居荒廢地於石花女園西丘
 白鴨御池上天橋山地石塔壘之
 者即永保天下聖趾安固萬世靈
 蹤故也
 奉行左大史攝津上宮臣 武夫磨
 埴土度 日東



真田山
いかり
桶倉社



比賣許曾神社

味原御小松村小あり延喜式曰東生郡比賣許曾神社名神

位下今小松村生土神と久例系正月十二日比賣許曾祭
五月音曹蒲刈神奉十一月九日櫓架の神奉

祭神下照比賣命 夜命の妹なり亦の名推避玉媛或は三歳女も
神代小松村小松村小あり延喜式曰東生郡比賣許曾神社名神

未社 阿遲速雄祠 若宮と祭天葉外祠 高津八幡宮 玉敷祠
牛頭天王祠 天満宮 神水賢本殿

神代卷云 高皇產靈尊賜天推彦天鹿兒弓及天羽矢
以遺之此神亦不忠誠也來到即鬻顯國玉之
女子下照姫亦名高皇產靈尊之妻也久不來報
中國遠不復命是時飛降止於天彥門前
乃遣無名堆何之其雄飛降止於天彥門前
所植湯津杜木之杪時天探女見而謂天彥
曰奇鳥來居杜極天推彦乃取高皇彥靈尊所
賜天鹿兒弓天羽矢射雄彥之其矢洞達雄
胸而至高皇產靈尊之座前也時高皇產靈尊
見其矢曰是矢則昔我賜天推彦之矢也血染
其矢蓋與國神相戰而然歟於是取矢還投下
嘗休其下之時也惟彥之妻死此世上所謂天彥
畏之緣也天推彦之妻死此世上所謂天彥
干天中器八日夜啼哭悲歌先是天推彦在

於葦原中國也與味耜高彥根神友善故味耜
高彥根神屏天吊喪時此神容貌正類天推彦
平生之儀故天推彦親屬妻子皆謂吾君猶在
則鞆牽衣帶且喜且慟下畧
垂仁紀曰 天皇二年中畧神石化美麗童女於是阿
羅等失也阿羅等去化處之間
何處矣對曰向東方則尋追求遂遠海浮合
日本國所求童子者詣于難波為比賣語曾社
神且至豐國國前邦復為比賣語曾社神並二
處見祭焉云云

當社の鎮座と年登久遠少て詳かり奉旧記小見八時世
後とて或と荒廢し又再管小乃あり近くと天正の騷擾了
後田信長帝願寺光佐の戦小兵孫小罹り燬燼とる附村老
小祠と護て僅小遺さの之故小あ代の捨傳名所集小と鮮あり

小近年天明八のこひ神社の楯代りも舊記神器を大略明白
たり其中小後相原辰御宇小將軍足利義晴公處を小再管の倭白圖
小見たり者上代の奉八日本紀古事記万葉歌中成以て正跡と鮮小奉

神寶 大鷹鶴尊の聖像 長き尺寸大 小檜命神像長四寸
神功皇后御鏡 顯宗帝御手御掛鹿角 菅甘津橋枕 化石
原頼光領書 高津八幡宮神像 神知速雄命神像 勅命親王作
將軍足利義隆之制札 同所將所現二面 大小檜命玉璽
等の御神器 近年社頭小なるて 同扉小なるて 遠近奉承

根津守原朝臣

丹後國大江山夷賊為退治蒙 勅命 後向訖速
可祈比賣語曾大神靈驗 可抽丹誠之狀執
達女件

寛仁元丁巳年正月十日

社家

磐船舊蹟 小檜村の南田圃の中 小一准の丘あり 下至土也 京と
俗小娘藏とも書り又 順徳院のハ雲抄にも久のころの由り
唯て天摩りあり 降其とゆり 比とて 故小高津とあり 名あり 所
至土也 京といふころの 磐船土中小鎮座あり 下至土と
ゆり され 比賣古事大神の御正統に 磐船土中小藏あり
万葉の註に 小四 社家 注進記に 人皇十一代 磐船土中小藏あり

丹羽庄三

神石美羅の天女と化し 小藏れあり 比賣古曾と宮へふれ 伝
俗小娘藏とも書り又 順徳院のハ雲抄にも久のころの由り
唯て天摩りあり 降其とゆり 比とて 故小高津とあり 名あり 所
至土也 京といふころの 磐船土中小鎮座あり 下至土と
ゆり され 比賣古事大神の御正統に 磐船土中小藏あり
東北侍習者 搖動其上 有祠 祭祀石靈云云
万葉 久堅のあぬの採女といふものにて 高津にせざるがも 角磨

同 磐舟のいのねのねのね小棹うてり未かく漕はるる也

村老味原氏曰く 小近世元禄年中より此地を所領して 田圃を
耕作の用水 小とて井と堀り 其時七尋斗も穿し 小平面の大石鑿
穿 鋤鑄小なる又其わらうとが 一は堀われも何れも 小同石小て
みられたるるあり 汲井と堀り 者忽病と受て 怪れに 磐船とて
事もいふとて 比賣 時ふれに 人々驚に 恐怖して 井と堀事も
わらう止小れとて 語りたり

山下清水 西小檜村 麻庵小あり 傍冷中にて
春夏 湯水 樹あり 同
有都谷 今の真田山の南を町許小あり
名義は 伝ふり あり



玉造津屋
 其の地り好
 夏に吹く風
 秋の月
 冬津屋へ
 凡小宮の
 曙
 不送
 老後



豊津稻荷社

金剛山
 一子山

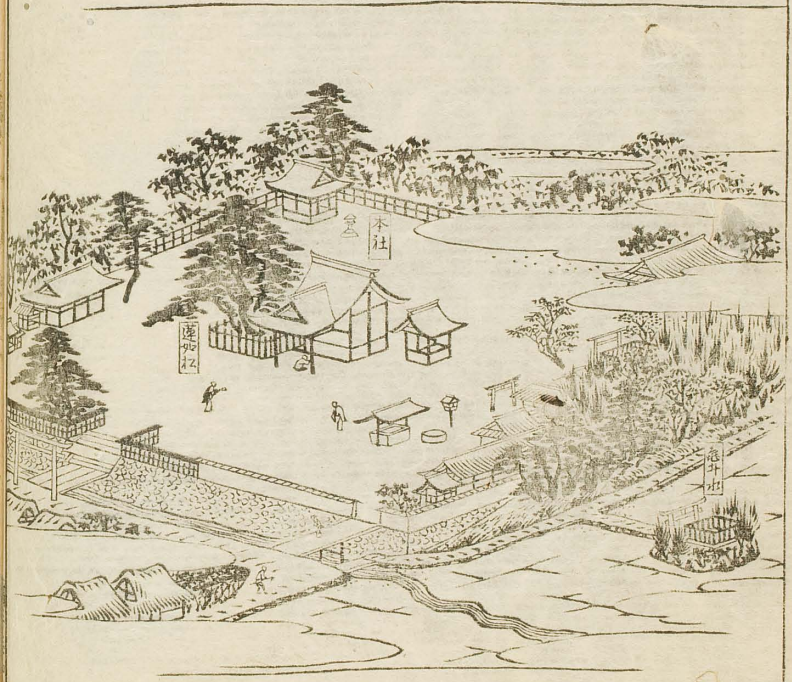
茶寮
 風亭

中社

丹羽庄

森宮

妻の影家あり
日本紀推古天皇
六年小御宇後
平積寺蓮如上人
は林下堂と宮の
三丘の末記州引橋
ゆふの山と名
ひんぐ隆泰とい
龍の畧あり



三韓館

内所の北き町許小田跡あり
日本紀云 舒明天皇二年十月是歲改脩理難波大郡
韓館云云大郡と東生那の事なりは三韓館と延喜式と難
波館と云ふはれり以の神功皇后三韓退俗の後乃の國王
竟と敵の使表朝の時より止宿響應の館と建ふせみんと尺
く其時より三韓館の名聞れ舒明帝の御時改て後理
三韓館の名聞れり平安城の鳴鹽館と曰来り三韓より難波
津すて乗船して来り先り難波館小入つて後平安京上俗
鳴鹽館へ入れ則大内裏の所殿の内り京の水小委延
喜式と難波館と書れれ今長祿の唐人屋敷のた
くひ形あり

忍墳井

真田の女一有小あり
玉造の有小あり世小真田山より元ねの真田の壘さる
あつと社説と宰相山と人加賀宰相侯の庵登

嶺山稻荷祠

嶺山と稻荷名あり斯く奉殿仁徳天皇
け丘も祀祀多し又奇其外赤社多しは地一推の丘山ありて東
の方と入つて世は山州北巖山より茶屋まで水あり茶屋
貴生町三上山金剛山と一殿の中小ありて館景斜ちり茶屋
と四時齋と奉と興

僧契沖遺跡

速高津御刺町小あり圓珠庵とありは阿闍梨契沖師
葉の墓註と撰り小時府下小器と圓律と著り茶水戸原義と萬
十四年正月廿五日は比小放て藏八年六十二碑銘と立其文曰

師圓珠庵契冲阿闍梨碑銘
師諱契冲字空俗門元宜仕肥後守加藤清馬
淵加藤氏國除李元全仕攝州尼崎城主青
正利師即元全之子授百七人一首旬日能記
山幸甫五歲母問氏授百一人一首旬日能記
父亦試讀實語教不日又記父母書天滿神
兒七歲患疾巫醫不驗在牀密書現日吾神
神憐汝至誠除病延命他日出家僧自最覺後
是業州之今里妙法寺四院五遍密師時年十一
受定始授般野山心經讀室授五遍密師時年十一
加意誨誘屢稱以法器授五遍密師時年十一
部大阿闍黎攝州生玉曼茶羅院之寬文許師賢
依市題俊歌二攝州生玉曼茶羅院之寬文許師賢
隨意周遊詣和長谷寺絕食念誦一笠一鉢鄰
室生山薰修練三十七日野葛城已下凡山
川靈異者無不躋攀又登高野山受菩薩戒於
圓通寺快圓比丘持律益苦掛錫泉州久并里
愛山水幽奇居數歲矣護三藏通悉墨旁窺諸
宗章疏至十三經史漢文選屏居州之池田川
涉名蹟稍顯從遊日多於是屏居州之池田川

側讀日本紀以下國史舊記專好倭歌博探安
書延寶五年就河州人師寫儀軌覺彥師受納
流灌頂彥以爲得八年妙法寺定寂遺命屬
和州生駒寶山寺好以老母在里不巳而住
焉寺傍構一室移母孝養水戶侯源義公方撰
萬葉纂註欲致之卷釋二卷上之如第一志作
萬葉代近記二卷師訓前人所未發蓋得其
畧去神代未遠則師所訓前人所未發蓋得其
旨義公見之嘉其卓見且奇合素意賜白銀一
千兩緇三十匹師以充寺院修造費且贍貧乏
一不緇三十匹師以充寺院修造費且贍貧乏
歌舊說以爲眺望古今餘材鈔師以爲人麻呂
猶萬葉集防人紀氏收之羈旅部所謂爲人麻呂
必論島之有無也其落句古陰漕舟也陰
也師以爲自憐舟中伶過也猶業千八橋將
程無句法也言人麻呂過也猶業千八橋將
見義公難波東高津號圓珠庵不願至母清
退院日林登之抵掌不爲千古發明賜書欲一
月自適居難波東高津號圓珠庵不願至母清
質正涌泉問日師今住阿字不生之域乎答日

然凡人心雖平當千等而差別泉曰千等差別無異乎
僧之言記之二十五日結定印之中心當平等老
漫吟集隱士長流為之序平日所著有卓顏鈔
三卷勝地吐懷編三卷改觀鈔三卷類字名所外集
七卷名所補翼鈔八卷和師正濫鈔五卷皆上
義公宗門疏鈔有若于卷師然關之無所固難
下然有造為密法邪說者果然關之無所固難
當時有識無當其鋒者鳴乎師之歌學卓論
今人不得而知之然其餘事焉耳以歌學論
師亦非知師者也為明嚮欽義公命就師之菴
親受其說情誼親密聞訃嗚咽因錄事實據景
慕之萬二云爾
元祿壬午正月十一日
水戸府下安藤新介為明拜撰

碑中小泉州池田川の側小屏居とととの州池田郷茂町村伏屋氏の
後園小遺蹟今小あり且契中真跡の和歌多く伏屋氏の家藏と
事ハ本泉名所
圖會小入り
玉造岡 大坂御城の南の郷多々あり四天王寺に初て小建を在り人時
録想不及く又幸頭寺遺蹟上人の傳記も出せり
今高津の尾野とせりの遺風形なり

玉造川

玉造川 玉造川の下とて今の大和徳の下流猫岡川
とて人形人々詳なり夫本集と道に播磨小同なり
夫本 今川して現代照月なれ底も及なり玉造川 漢入る
新勅 水入る能くは小く船ととととそね君と自れ 小町
夫本 月もそむ玉造うに雲うり水もそる冬小くそ有るれ 後成

豊津稲生社

豊津稲生社 玉造稲荷町小あり夫系六月晦日秋九月十五日
火燒十一月八日は此の生土神とれ
祭神 蒼稻魂神 社説之金城の所鎮守と稱れ觀清の年久
為小覺亡其後慶長八年豊後秀頼を再興奉行八幡市正
加藤左馬之助は將と當社より八町封神の方城御形り貫永
八年今の社地(豊座)近年當社修復して住居の人
火燒くとて廢り又例年二月初午の日ハ君とせり

振社

振社 神明祇園後田後春日人丸
事代主命 金毘羅 摩利支天
八幡宮山王權現 山里の御九よりとら移り
天満宮 管神御直筆より高辻中納言
徳長御の内副翰あり

住吉祠 八列の神像あり 弁財天祠 神像弘法大師也
傳法の神の出現 (他形)

觀音堂 本尊十一面觀世音と長五尺八寸 聖徳太子御作
靈驗神として詣人々之代 厭土を不動 毘伊門天

白龍池 觀音堂の傍小あり 祈雨の時
靈驗あり 坂小名 ふよふ

高臺 本社の後小あり 東の方河州本治の山嶽眼小連して風景
斜形あり 初之池の樓臺は豊后秀頼公の遺之形

神樂舎 社小あり 神樂の紋三ツ粟刈羽衣あり
神の紋とりへ今ハ多ク稲の丸刈あり

梅薬師 稲荷近隣小あり 本尊は梅薬師境内小紅梅多し
衣更月未開紅ハ風艶斜形あり

火とよみ梅の火うらのふ茶師ごまのふ今もあがりく 貞祈

越中牛戸 王造り越中町の辻小あり 細川越中侯の屋所の井とり又かきや坂
の下東側人家の裏小稲荷祠あり 此祭の鎮守とり

玉造清水 下流村町小あり 寶徳九年とり初 傾城町玉造小あり 村九軒茶屋
とり入道世より 瀬子傳りの家残れり 又は小伏見坂町とり入遊女
町のりこれ後世道傾城の南小
移れり今の坂町の旧地あり

森宮 王造森村小あり 妻ハ龍女形あり 日幸紀 推古天皇六年夏四月龍二
御氏雅臣の社小養ひしと則此地ハ明應のハは小卒領寺御堂
あり 信長と頼朝の御紀州推賞小退刻ハ死ハも旧名と

祭神用明天皇 上宮を子の御父帝と 崇峻天皇二年秋七月聖徳
太子此地小くして 四天王寺御興ハハ九十九年と後

今の荒瀬山(嶽)あり 坂小あり 古田趾小 金堂講堂
駒ヶ林久佐の園あり 人家の池今小あり

攝社 同人皇后祠 末社 八幡宮 稲荷 桑湯 天満宮 蛭子
真神を神祠 後田良 事代主命 伊勢神遙拜所あり

蓮如上人祈松 社小あり 蓮如上人ハ松下小あり 此社の神小上宮を
子小一宗海内小弘通ハ信公の門徒 樂昌と稱りあり

形ハ又む道りの内小蓮休育とり入卒領寺末社の道場あり 蓮如上人
御教の時より小休あり 此名と号ハ今ハ村の家派と改りしと

龜井水 本社の東 入湯沐浴 社家小あり 昔小龜井水と改て老人
小入湯あり 一む 龜井水 龜井水 龜井水 龜井水 龜井水

男女小限ハ久遠若くものち小ありて
ハ陽ハ其靈驗あり

徳氏枕草紙ハ云陽ハ玉造りの湯 春曙抄
季ハ春の莊園いよと考れとあり

当社例祭ハ五月八日御田植六月晦日夏秋九月十六日秋祭
神寶ハ草刈籠 夢殿の松 驛路の冷等あり

枚山 鶴村の上方小あり 此地風景ハ春暖の以
浪華の賣焼る小未ッて 樹裏ハ

名産深江菅笠 海に村及ハ樹木多ク 樹草と云ハ何て正れと
道ハ只此にやと稱して名産と云

押照ヤハハ菅笠を好む故に 菅笠を好む小
延喜式日 菅並骨科材從振津 菅笠二柄

同笠縫作 單功十人



初年日
杉山群聚

本陣小光後の
 初年日と云ふ
 杉山の松を
 祭るに
 杉山松の
 祭本陣小光
 初年の日と云ふ
 杉山松の祭
 本陣小光



丹羽庄三



丹羽屋



又坂のやうに賑はの
 菅笠へ上りて
 路ゆく万葉集
 延喜式もいふへう
 ささきたけせのた
 難波のの仔細未
 新し後菅笠不藤の
 花いよさしくを岡
 あぢも不敷れつれ
 の藤笠はこよま
 くれと
 のと

丹羽挑

法明寺 係に村小の申士宗京阿知思度小属凡
 岡基亦也大念佛宗中祖法明上人

今尊河弥陀佛 惠心僧邪の化
 長三尺く

倉籠塚 係所小の法明上人入寂の時倉籠と云ふ小蔵にては寺と云ふ倉籠
 一説云は所の獵者鳥の糞と射取れり其夜唯来て悲愴の声

と出して此小倒れ死に痛者られと怪人てこれバ夫の蔵もか一愛痛り
 悲して死せり形んと初めて惣籠して惣小は寺小入上人小若り秘生

の罪と融一髪と韮をふと取れり其唯確の鳥は
 埋てられは倉籠と云ふ人の形

左專道不動 係專道村小あり初メハ農夫徳左門の家小女置一々り近年
 後山は三即と云ふ不初堂 と建てられと存るといふ

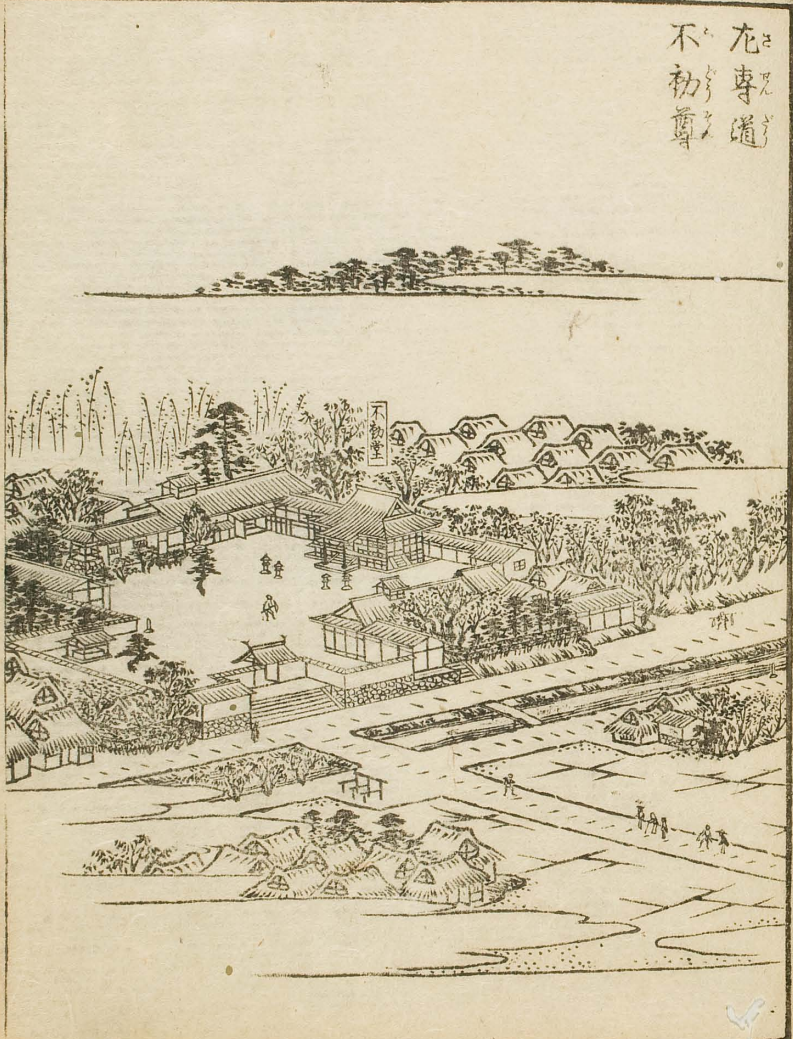
細崋 永徳の係所ハ澗川の堤にて漢家列王鮮奥と多く市小ハ又貨食
 小あり

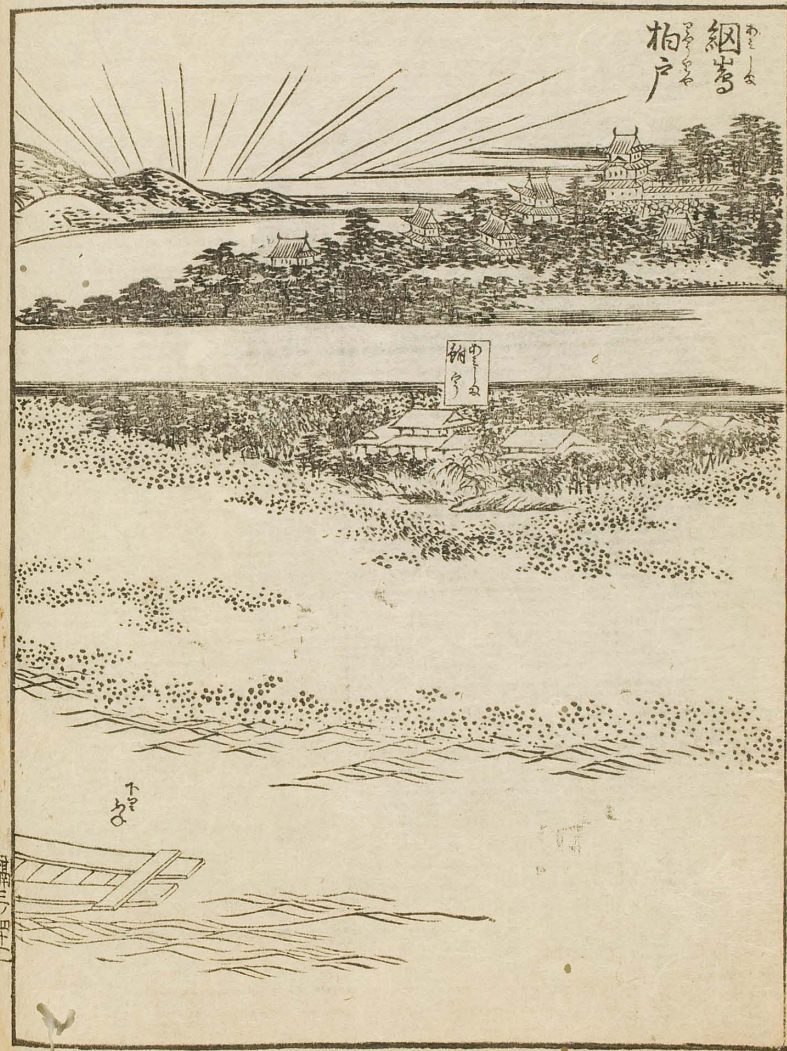
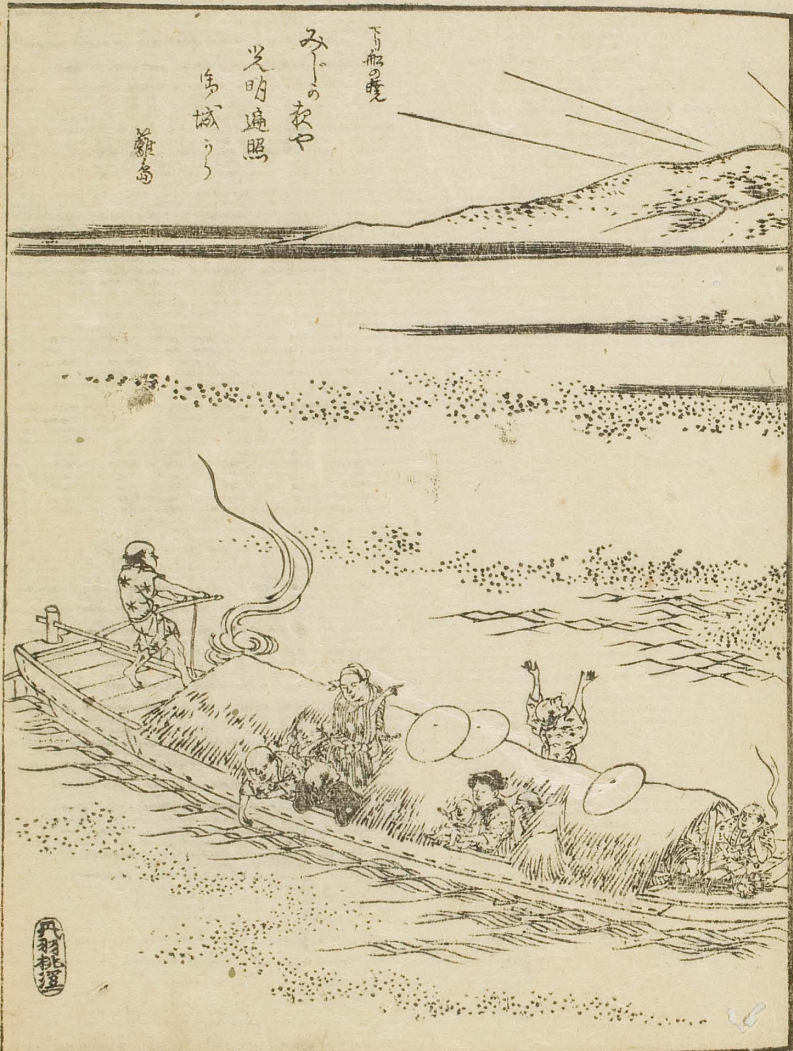
家ありて風流の身設けある雅は津の通船釣船細糸の道區小夏の
 暑は忘る夕暮の河風小蚤蜘蛛とて吹も情は星の傍り小畑より又

中秋の月を銀色三子界の々たありて流老小掉の音蕭條くしてまき之
 東と志貴生駒採が嶺峠かばれた二子山の雲々たも興りて雅

は巖上の名境形下

左專道
 不初尊





大長寺 細島小あり浄土宗 系呼里谷小属尺

奉尊河弥陀佛 惠心の他 境内小あり寛文八年以里の徳正辰川
く巴の杖あり里人ちを拜して官小僧 經と持より其續小らく
その群とかきり田と修して死なれば者奇一葬其衣任信の衣小甲曾
と還る者赤り多うまればと足ね具足眼春も皆巴の杖あり
我こそは秘の命戦小奇味とあり 持して奉り 經生と好む
越死するはは報やあり 續小此れ 經も尚の張尊
うけ奉り小報り其靈惠今供養 經り 功德あり
佛 多う密に發覺ね故小龍登鯉山と
法名 碑とて經系とて入る

様野宮 中野村小あり御祭九月廿日旧陸八野田小橋
故村川の堤宮は橋より所あり故小名

系神天照之神 社強小神あり 孫多 弥生の盛たる辰の
うらむ色の色水の面小うらむ
塵埃と連て神氣はさしらす

花の風かろく身をさけ酒の池

源八渡口 系成郡天満原八町より東生郡
中野村小あり

母恩寺 岸上は村小あり法皇小と拜尺
降土家如僧住職尺

奉る河弥陀佛 惠心の他 長三尺并奉り 白河の
願して竹母持寶 門徒 善提の

鶴冢 欲物小御前母の恩と續せんを守号あり

名産蒲穂 浦生村よりある 延喜の天井 榎側の
是小川の色美ありて 長

大河尻 淀川の竹中村よりあり

言 御御と鎮 高倉上皇 慈尊
行幸の時行宮は 小宮構とて云
土佐日記云二月十六日水尾 御石のまきより
出で難は津小来て河尻小入と云
一載鑑曰元暦二年十月五日甲申今日豫州
攝津國至河尻翌六日於大物廣乘船
家集

絶同池 千林村小あり今あるの絶同と称れ古来より
河州 茨田郡に属れ今池水乾固れ

後積

福嶋天神祠 上福嶋中福嶋下福嶋三所小あり何れも昔神と云る
あるは昔針流しの神率の遺風とては地小翻清ありある昔
云はく 一こそく 師時公為小取より

堂陸

福嶋天神祠

毎葉六月廿五日天満原の時神輿供奉の取は所あり

里人小所の

名と尋ふに賊鬼徳と申上る是不祥の名に以て福徳と名乗らば後世繁昌と云々の作事にて福徳より人名と茂原の

逆槽

上福徳落凡町松平氏別荘あり元暦の以延尉義隆提原景時逆槽の端あり所々大樹あり樹の形雀籠に似て

相の高三三間南北の校井同計あり權發明和九年小樹て今か去程小元暦二年二月三日の九日即美判官義隆都とて攝津國渡辺福

徳所を船揃へ公寫既守せん兄弟の季阿守範頼と同日小都とて是と摂津國神峯とて兵船はて山陽道(徳)とて十日伊勢守信水

官幣使は云々主上亦三種の神器事故多都(入奉)たり神祇館の官人諸の社司奉宮奉社と祈誓申上る旨下れ同十六日

渡辺福徳兩所と云々船共の纜已小解ん折節此處折て烈々吹すこれ船共皆打抜せられておとら及らん依理の如し其日ハ

留るねを後小渡辺の大名小名寄合て折我等船軍の様未調練せり如何存と評定に提原進出て今度の船は逆槽に之候なりと

申し判官逆槽と何ぞ提原馬と懸念と云ハ懸引んと云ハは引弓も馬も也安作船と左様の時急な押しと云

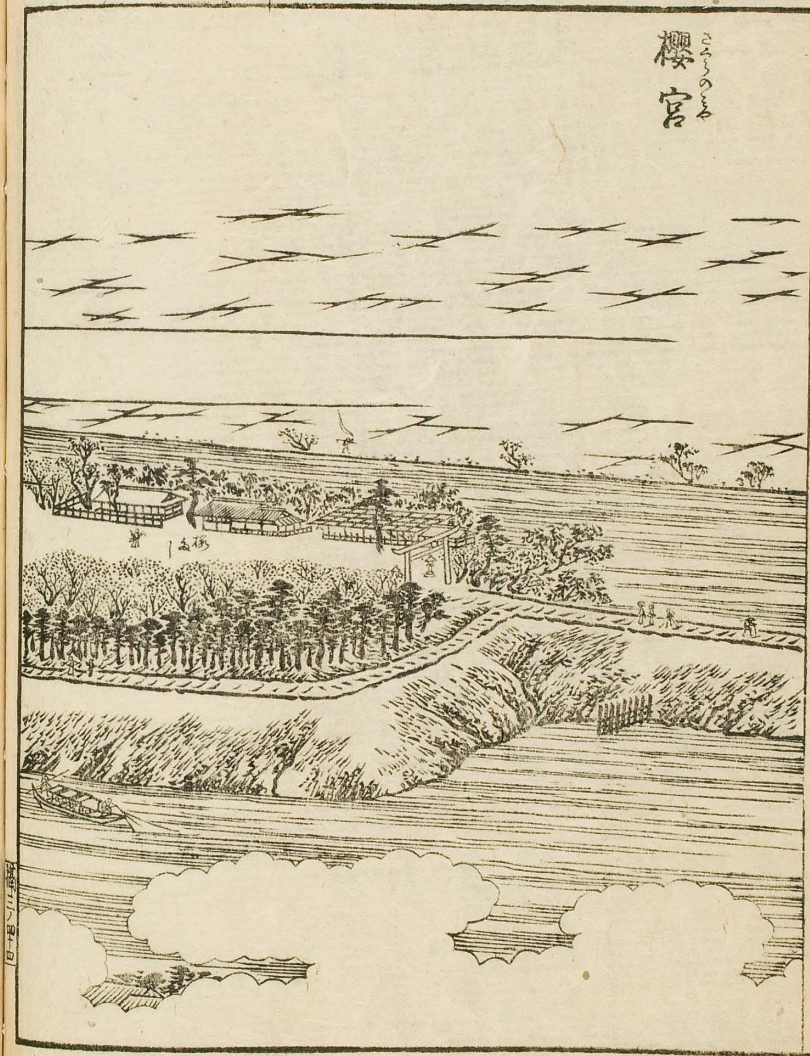
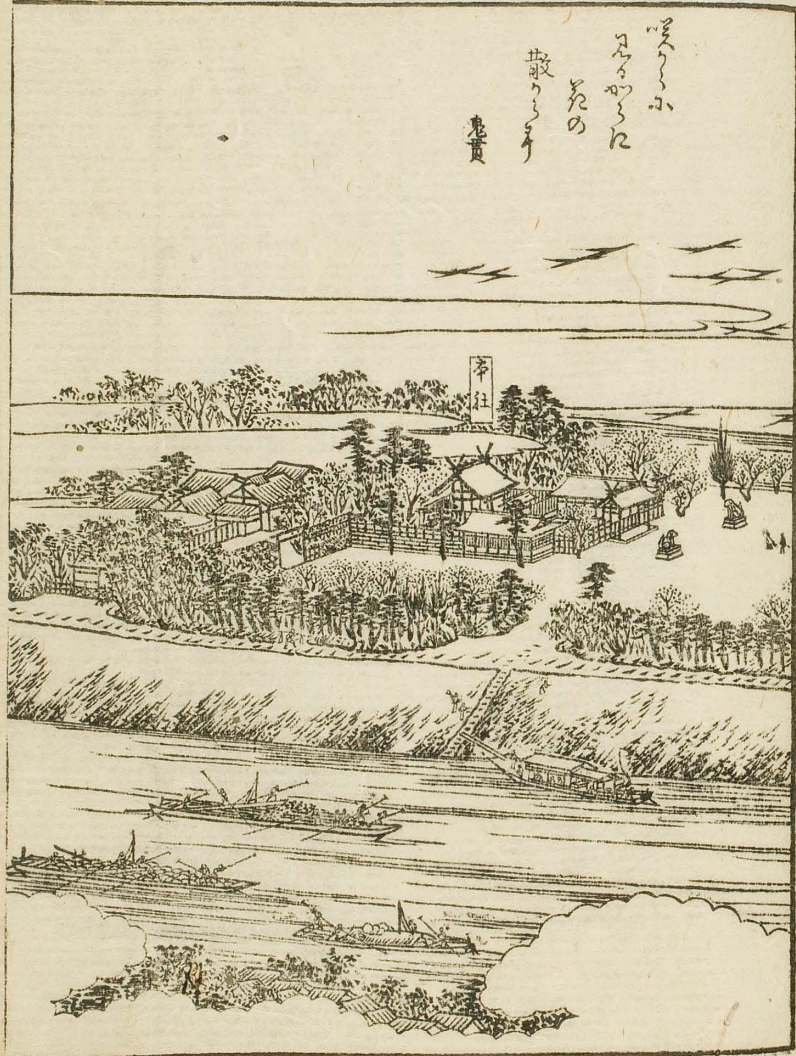
大事と云ハ艦軸小槽と云て違へアイ楯とてと云と云易の様云作れやと申され判官芝門出の悪し軍軍一引も

引と云思ふに合ひ懸れ引の事の如く場を様小巡儲せん小がふ能もる殿原の船と逆槽と云様槽も百丁千丁も

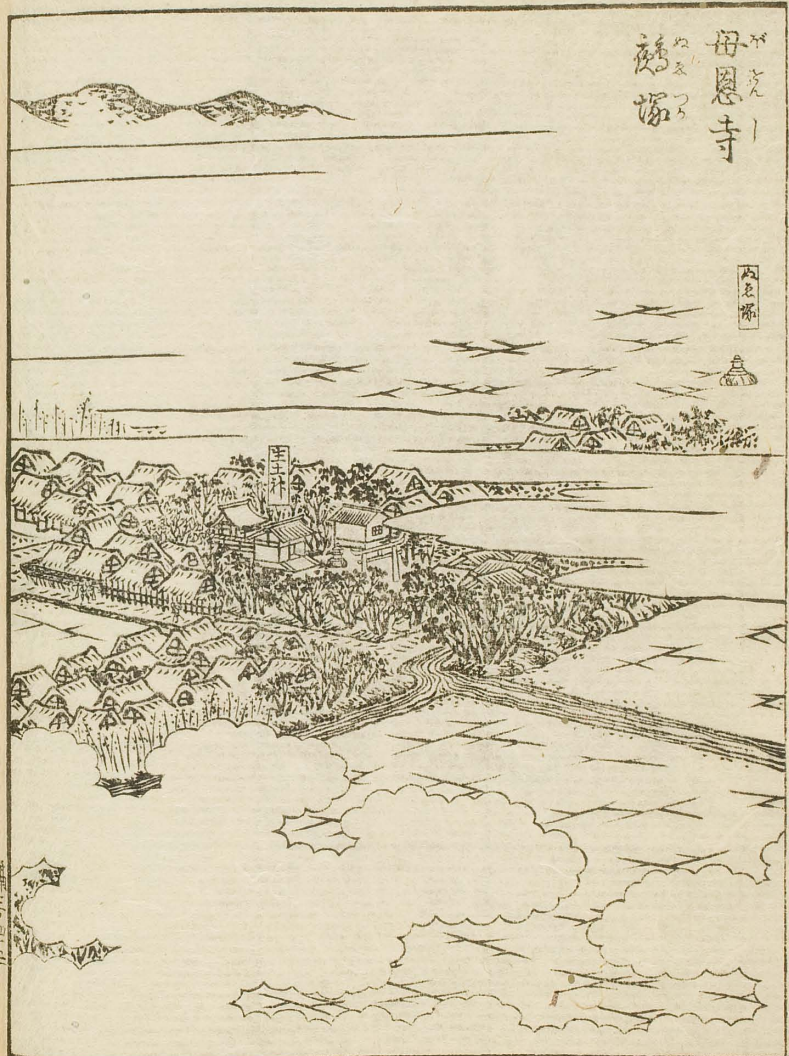
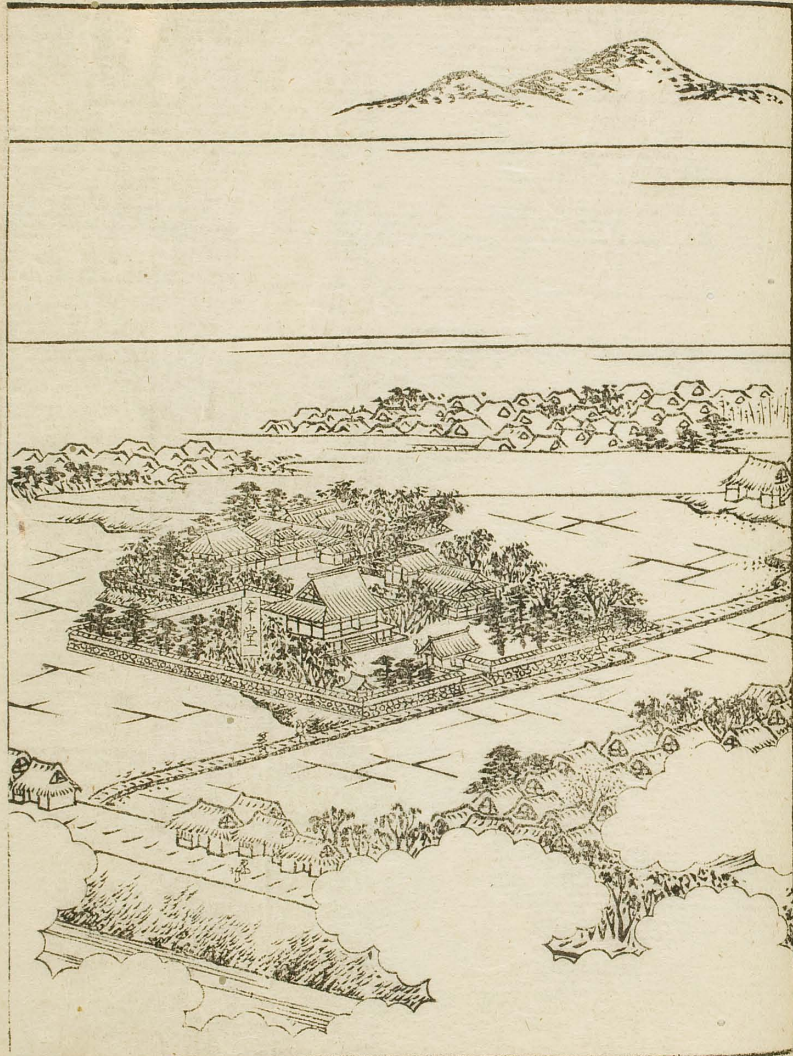
之様義隆の只元の槽て作んと宣て提原重て好大將軍と申ハ逆る所も懸引と所も引身と云て敵と亡と云以て好

大將と云る云々様小片遊成と云積武者とて好らせと申し判官猪鹿と云軍と唯平責小攻て勝らと云地やれと宣ハ東國の大名小名提原小忍れて高くハ笑り云目引真引

おられたり其日判官後と提原既小同土軍せん云れとも軍と無(云々)



櫻宮のま



のひ小相するさうり代見へて名を高廣の松の如く四方小圃下
 菖形り々心今その古根乃知こく於此のゆりの色成ふはさうりて
 辰忘れぬと見たり言れこゆりの色成ふはさうりて
 人の絶ゆるわされ形りそれら中小はり江の河の長き流れと
 名と察る翁ありてか
 叙し見入る

山塩の対りりや 雅は津小有じ名残の菖のむ

證如上人旧蹟 也田村圓満寺傳云天文元年八月廿四日令願寺光十代
 禪正定頼と日蓮宗の僧格と一味して四方より圍放火して
 廢り大板打ても退まりて上人と賛讃んと戦ふは池及び近郷
 の門徒馳集り致命は惜たりはれたり又天文二年八月不意に
 被破まりて上人の御身も危うかりしは也田福徳の門外 命と
 惜れ故は追拂ひたり後又故味方討死を買多うりたる證如上
 人討死の門下と憐れ御真筆の御文章と下される今も村
 極樂寺にあり

其云云
 今日のうらせんは正人うらそこのうらそこのせいふあまふ
 去れともちやう人の御方とすられたりくつらうらうら
 ちたのうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 形ふふらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 られと色うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 八月九日 證如判

今圓満寺境内に天文二年八月廿四日村並人討死由緒池とらへ石碑と建る

妙徳寺

福徳の北小あり禪宗 龍王山と辨入岡基鉄梅
 和尚正徳年中 撤除本尚道之俗五百羅漢のふりり

佛殿釋迦佛

中央より安置れ 佛殿の額 佛殿の額 佛殿の
 五百羅漢 佛殿釈尊の 徳元和尚 鎮守 佛殿の額 佛殿の

千祥地勝此道承先揚

佛殿小揚 鎮守 佛殿の額 佛殿の

百川系流園家瑞

南原和尚 禪堂之揚 鎮守 佛殿の額 佛殿の

五系一花天地表

鎮守 佛殿の額 佛殿の

南園山河現宰官身福物

鎮守 佛殿の額 佛殿の

多秋香燭踞坐常界積宗

鎮守 佛殿の額 佛殿の

野田城跡

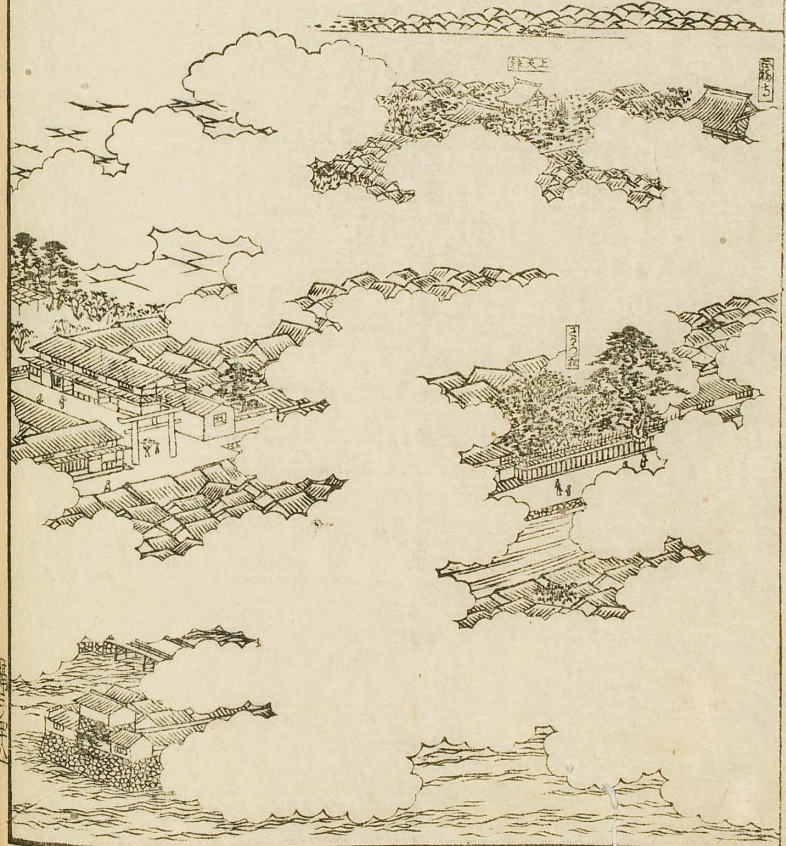
也田村小あり 野田城の内より初め細川氏綱在城と
 天正年中より信長の旗下さる壘深築く

名産鰻鱈魚

也田村より出る美味しき
 一名 鰻鱈魚と存ん

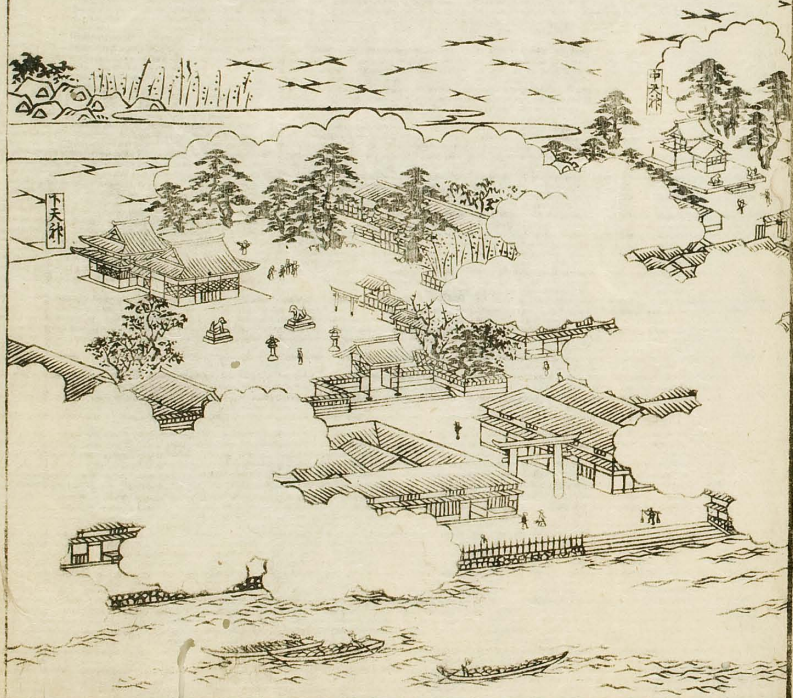
當寺の北久安寺と教帶所として原と 後白河院久安年中
 草創の地と近藤泰享保十九年五月小旧地より引移り再興

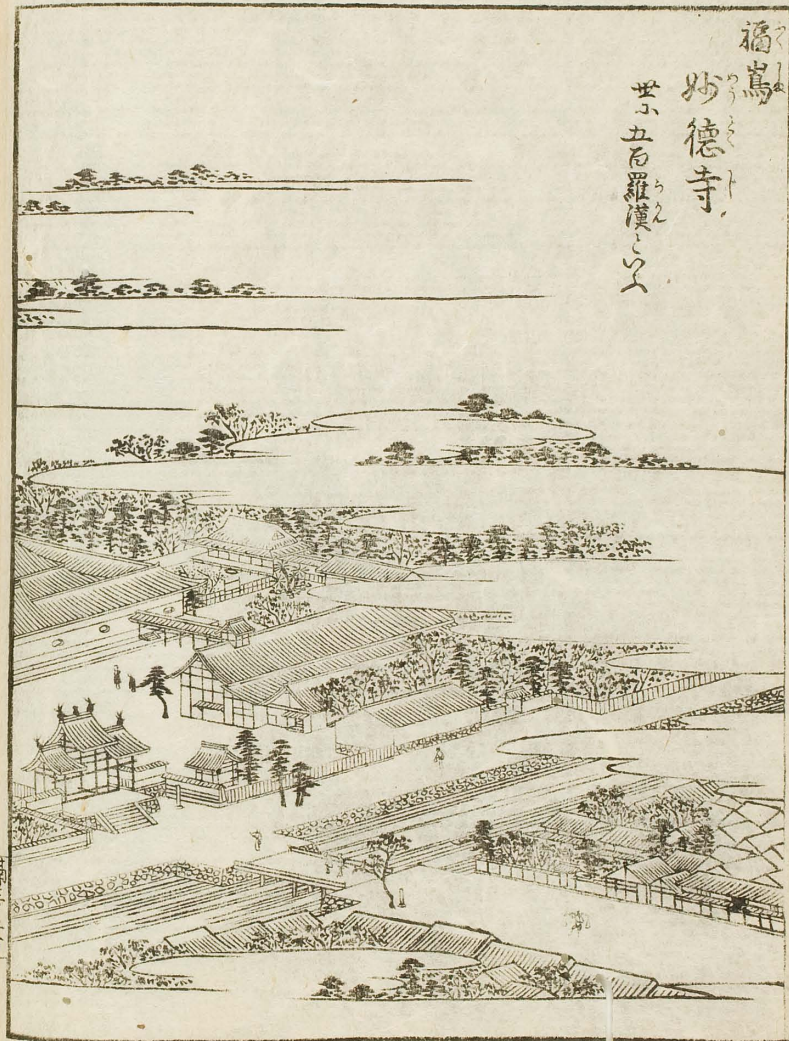
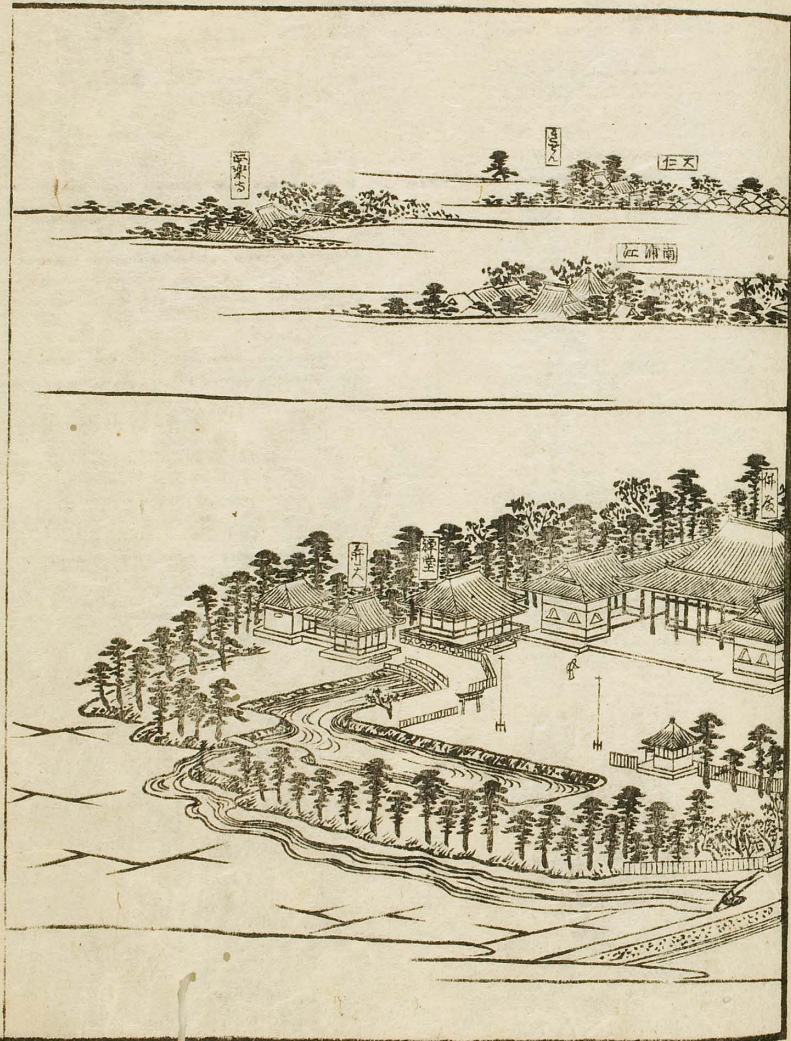
福修
天神
所



逆櫓
松

高や
女世も
さう海の
松を
木の間に
朝日將軍
九經







御幣山

今畧して柳村と云ふ位者明神と祭居たりむくハ社頭
を嶋下郡甲原村あり

武内宿禰墳

柳村光明寺と云ふ真宗のあり旧記紛失して其
燈祥のありけり宗聖一休和尚自画瀆の二軸あり

一夜官女

柳村の女子小衣裳と改め神供と傳へしれとや里の一衣官女と云ふ
しり今其形はうり行形

大和田

柳村のふ小のりは所尾ヶ寄小道くして河海の界なり
故に舞舞を舞一殊に舞多く集れり常々深れりといふ大和田

九日と云ふとや多れ小のきぬう船引に上れとも何のあか

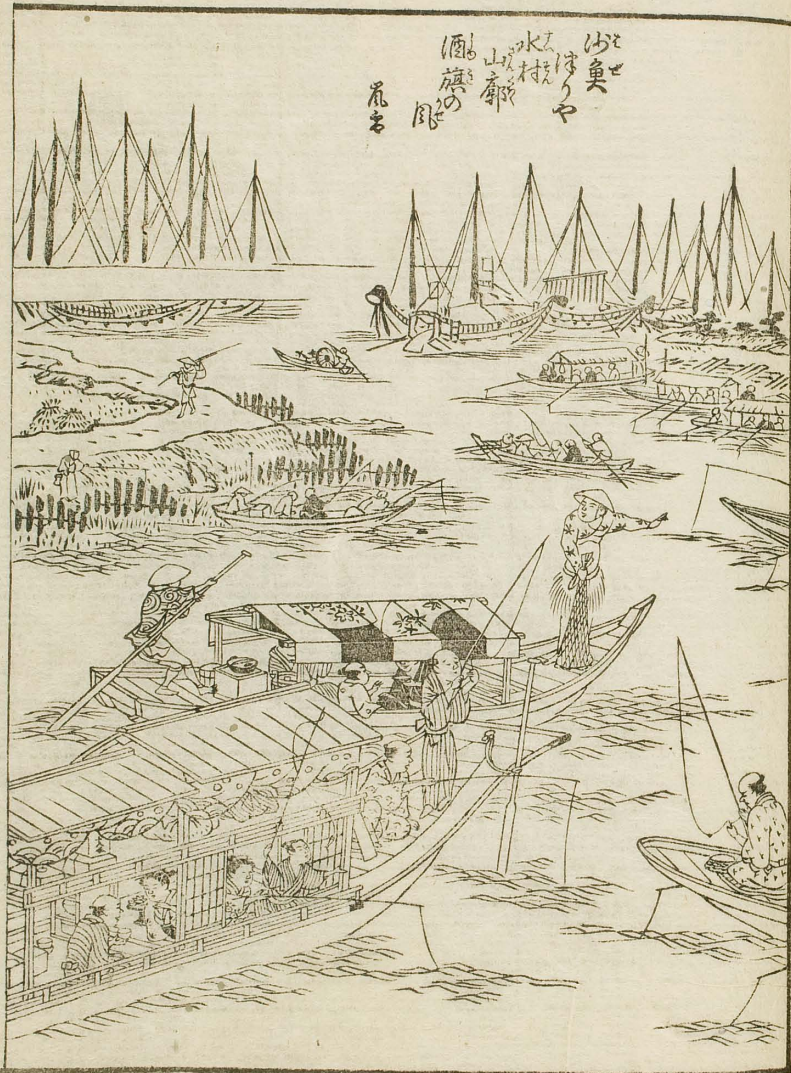
たれはゆり小のといふはるよ大和田の伯のあれと云ふ所

候まきくう多りた林代りうあねのとも大輪田のさ 後人

大和乃うはよふひ船とてほさほ小月と云ふ 具氏

判官松

大和乃あり九郎判官義経大物浦(外まあり)時ふ憩ありとやん
大板より尾崎(はらふ)船より舞えんゆり



沙奥
 水村
 山崎
 酒旗の
 花名

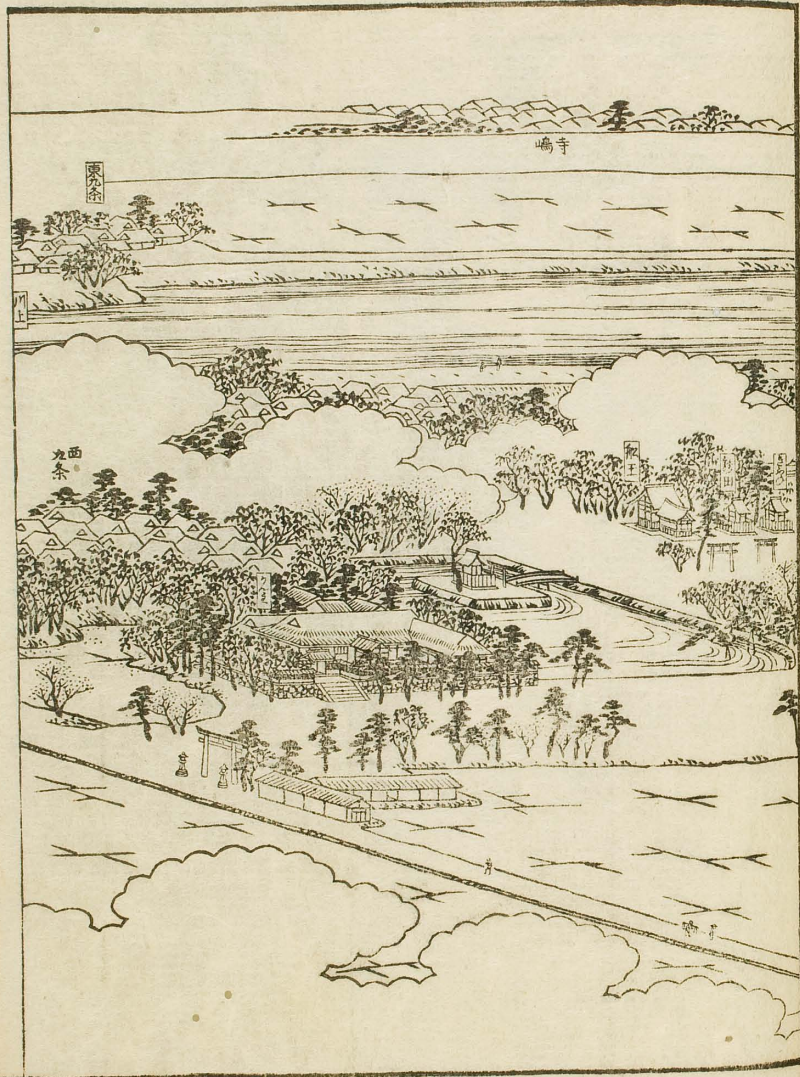


秋興
 沙奥釣

花名

丹羽桃彦

海二半四

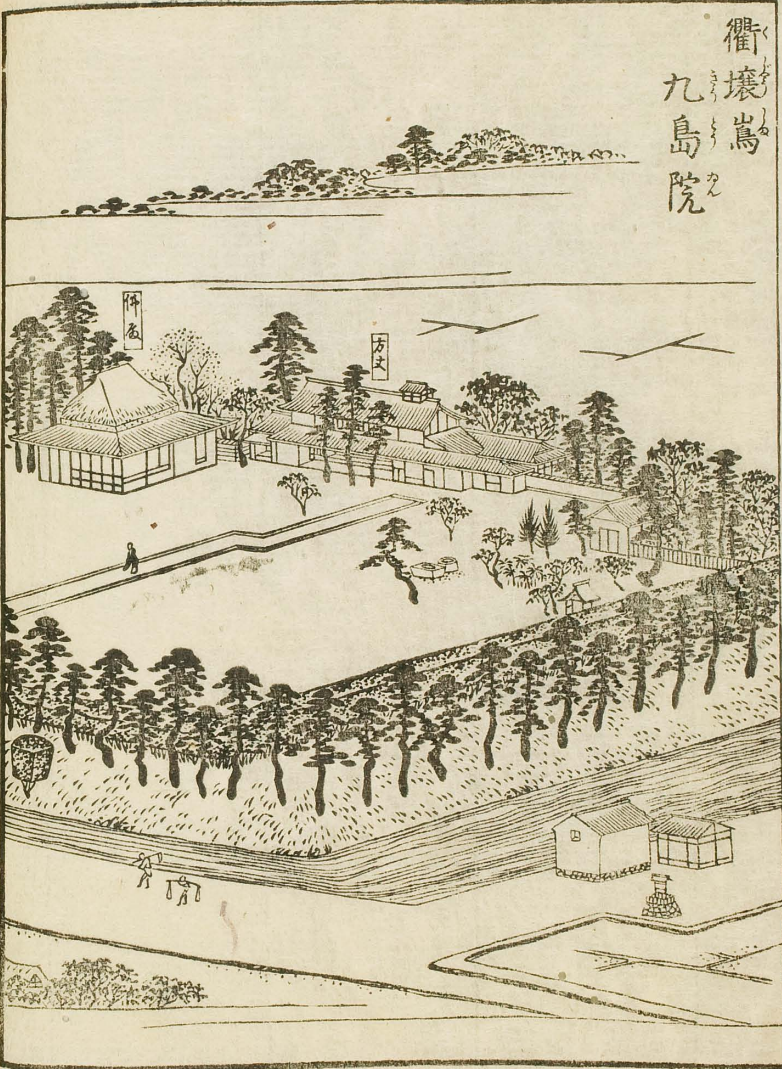


五十五

龍溪和尚
水定地



衢
九島院
壞
島
院



傳法

傳法寺あり佛あり今廢して地名なり

小傳法有傳法と稱さるるなり 欽明帝の時時我朝へ佛法
歳云は所傳法と稱さるるなり 故にわたりて一派のりる上
皇覺鑲上人と號し高僧と傳法はと
創りて人將良林西園よりある者なり 名はくは 又或は天の信通人知り

鴉村蟹

君細川高國と號りて名義の涼禄のれ鴉村左馬助とて人稱主
死に聞りて死出の供せんて四方八面を代廻り故に多討りて早高國の討
期して破兵三人と脱逃して後に入水しりたりこれより鬼面の蟹其出生
を土人鴉村の怨念とて人又腹を赤記もてさうさうせり

加島鍛冶

今僅一軒あり 延喜式云攝津國五十八烟右鍛冶戸
毎年當國計帳進官官先つ下主計寮全計損益然後下
寮即從十月一日至三月三十日爲番役使云云
此も亦や錫とて多く鐵と食さるるなり

稲荷神祠

加島村あり此の生土神とて創り九月廿三日土人日神主
加島權頭ハ狐狸の魅犯人と號くこの祠を得たり世名高

富光寺

同基中安實因上人慶長年中の再興なり

奉尊彌陀佛

不動尊弘法大師の像に共大師の像を奉置け

八幡宮

三陣を村あり三社と別れて鎮座すり此の初ハ三社村と

長樂寺

三津谷村あり真言宗一社山と号し初ハ長道仙人同基其後
慶長年中再興と述ふなり 後世荒廢して奥州有後師爾
伽藍廻々あり寺に古面あり

奉尊藥師佛

黄金佛長三寸計前立弘法大師の作長六尺許
觸土日光月光十二神祠に安け

聖天尊祠

大師と稱り慶長二年三月廿日入定の前日
九日又殿斗たやへは名とす

利崑

又富嶺と書け南中鴉三番三塚卒のなりけり八雲内抄
年中の御終りて古号は呼て
名付て富嶺の旧源とありん

玉葉

勝北吐懐彌云右二首も玉葉才三ふかてし故に玉葉馬とて
て今のかうと並びよ三ぬりと點せり 亦三犬女をさうさうせり
毎馬備の菟奈郡大石村あり卷末に入らりは色を大石の中ねれい
は海邊等の宮多三番村富嶺氏云

金葉

風をさうは海邊とてたけい玉葉鳥をさうさうせり

神祇伯
孫仲



何やかなく
 経の浮き
 藝の水
 卯夕

春泉齋



大和田
 鯉抓

まじと
 漁人鯉はとと
 去紀の眼と
 ふとふと
 大和田
 目と
 形と

三





班中
橋の
ふり
むり
り
や

袋巻紙云
かゝる長巻紙信の敷き者あり
始て純國法時より相まら感
あり純國法今自又春の
出物ふらとむらむらと懐中
より御の小袋と取出し其申
小袋肩にあり示し云是は
是吾を實に長柄の橋遠の時
の袋肩ありとらふ附信
巻紙裏しとて又袋中
より紙の裏に抄紙出さるり
見ふ袋の裡にこれ并建の紙はるる
共感歎しく冬に懐しく近故
とて今世入可補時信也

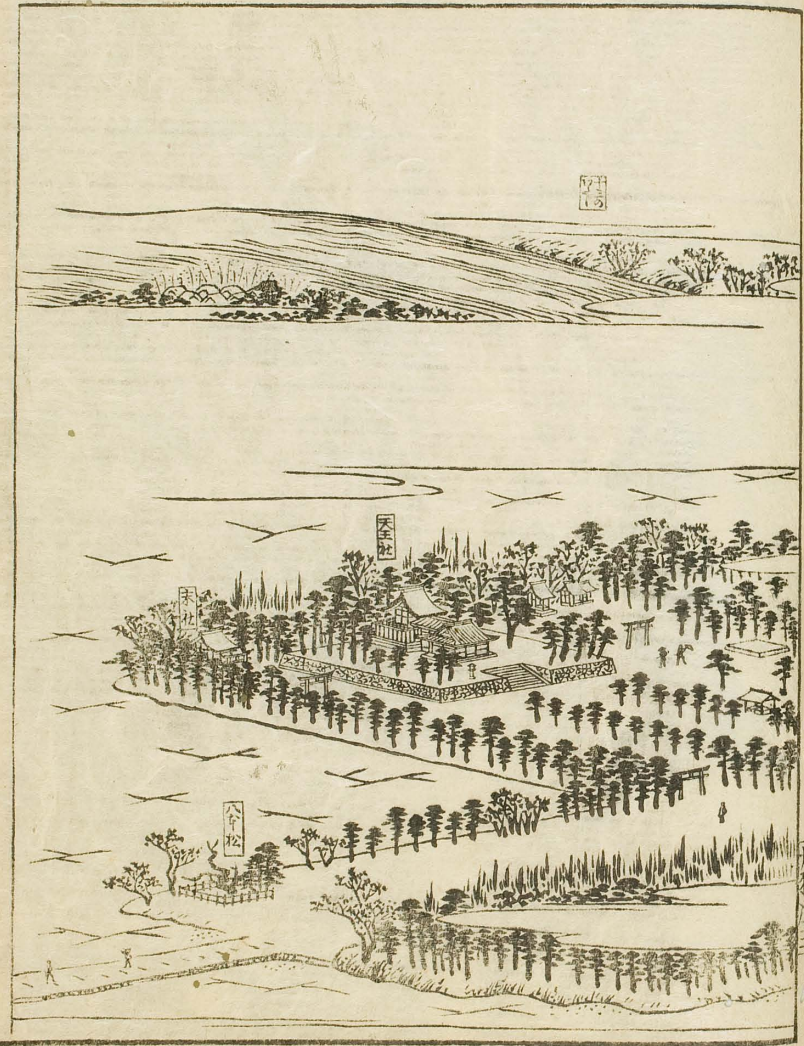


長柄の
橋の
口

高橋
六葉の
右橋あり

備三六十一

本庄
天王祠



三六四

鶴満寺 南長柄あり 天台律宗 雲松山慈祥院と稱す

本尊阿弥陀佛 慈覺大師の像長四尺許 北流る例ふ安ん固基ハ

百舛觀音 杖父後東西兩等の巡礼所 於て百體の觀世音菩薩に

梵鐘 長門の國土毛利侯より 行府下 御普城下の國土中より 鑄

八平十年二月、
青金銚入三百斤長二尺四寸二分

西晉二世惠帝太平十年庚申者永康元年之奉朝應神天皇三年也 當
今寛政十年也 都て一ふに百年よりなり 又梁の元帝の時太平の年
号あり 一年として 後宋の末宗の時太平興國の年号八年にして
終る時と 崑山の鐘を太平十年とめり 西晉の年号なり

長門州 尊 郡 宇部 郷 松江 山 普濟 禪 寺
聞 鐘 聲 煩 惱 輕 智 惠 長 善 提 生 離 地 獄 出 火 坑
願 成 佛 度 衆 生 皇 風 永 扇 帝 道 退 昌 佛 日 增
輝 法 輪 常 轉 天 下 太 平 四 海 靜 謐 專 祈 諸 大 檀
那 信 力 彌 堅 善 根 增 長 二 世 願 望 一 切 圓 成 欠
翼 山 門 鎮 靜 海 衆 咸 安 修 行 有 慶 進 道 無 魔 般
若 智 以 現 前 菩 提 心 而 不 退 四 思 總 報 三 有 偏
資 法 界 含 情 同 圓 種 智
永和五己未歲仲呂日

國分寺 國分寺村あり 正圓山金剛院と稱す

本尊阿弥陀佛 聖徳太子御化あり 亦不動尊 弘法大師御初ハ

敷名比叡尊 初玉蓮り 鑿を極小あり 當寺ハ 國分寺の其一

外施料の年延喜式ありと大徳實錄にも入り 又東生郡も 國

鹿嶋神祠 本庄村あり 系神 鹿嶋 命 今天王と称す 寛永の初ノ諸

山伏堂 本庄の裏小あり 鎌倉を造り 古まゝにして 枝葉四方へ 佛

律より 青牛の如く 婦人 旅立の時 松の葉を 敷き 糞

觀音寺 本庄村あり 禪宗 黄檗 院

本尊千手觀音 恭徳帝の御念持佛にして 聖徳太子御化の原ハ 寺と

わ尚再興して 靈心は 皇の勅諭ありて 宸影と云

橋柱水藏尊 境内北院堂に安置凡長五寸計寺記云 後一条院
帝に負つた神也と命じて水蔵尊と造りて之あり人即此
橋平寺の旧跡をいふと云々率判成建て安重と云云
其州で堂舎建立の其後四糸大納言
云々御記の叙とありて可なり云々

長橋にや藤小川より橋を造りて今も之に云々
亦時々の像徴多しあり 鼠突不動尊 長三寸計
其の世に別水藏と云ふ 亦神小路不動尊と云

光明橋 同村あり傳云天正年中此中光明有て又龍燈
其の世に別水藏と云ふ 亦神小路不動尊と云

賀茂神祠 亦大道村あり南大道北は直別所名の
生土神と云ふ曹阿宗の禊祓と云ふ

大祖皇神祠 日村あり傳云 亦神應仁天皇
二年秋九月 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇

大隅宮 旧趾西大道村に日平紀云 應仁天皇二年春三月
二年秋九月 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇

二日 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇
二年秋九月 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇

二日 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇
二年秋九月 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇

二日 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇
二年秋九月 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇

二日 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇
二年秋九月 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇

二日 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇
二年秋九月 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇

二日 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇
二年秋九月 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇

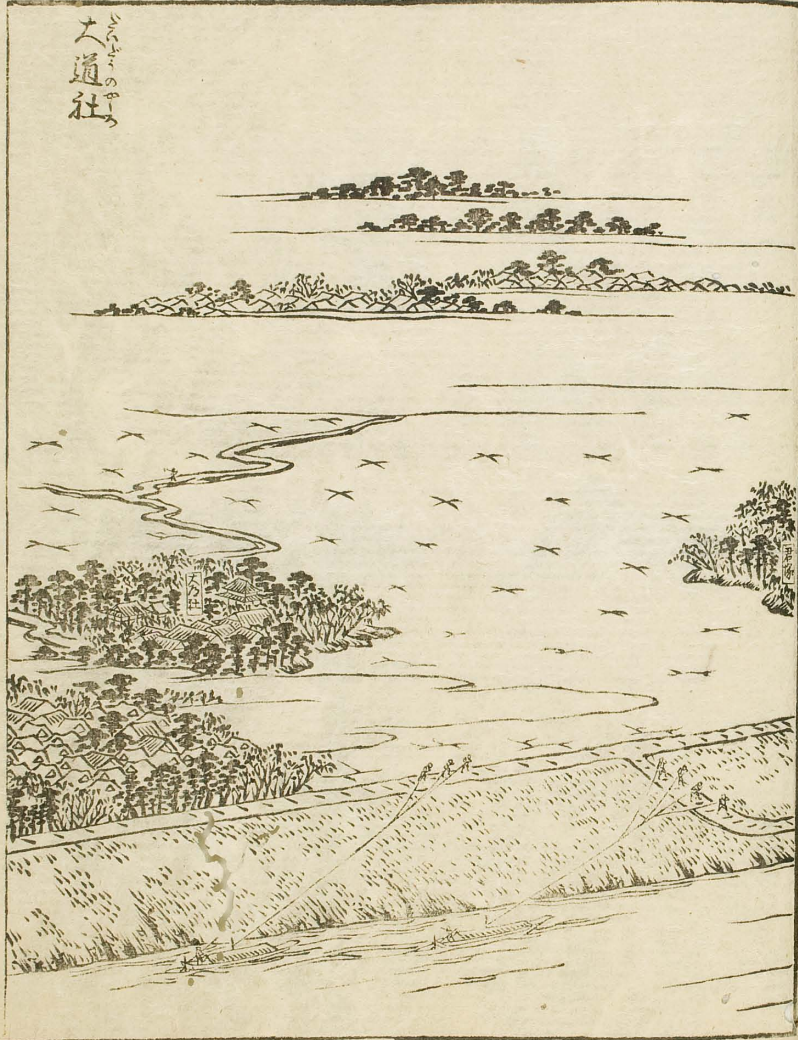
二日 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇
二年秋九月 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇

二日 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇
二年秋九月 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇

二日 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇
二年秋九月 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇

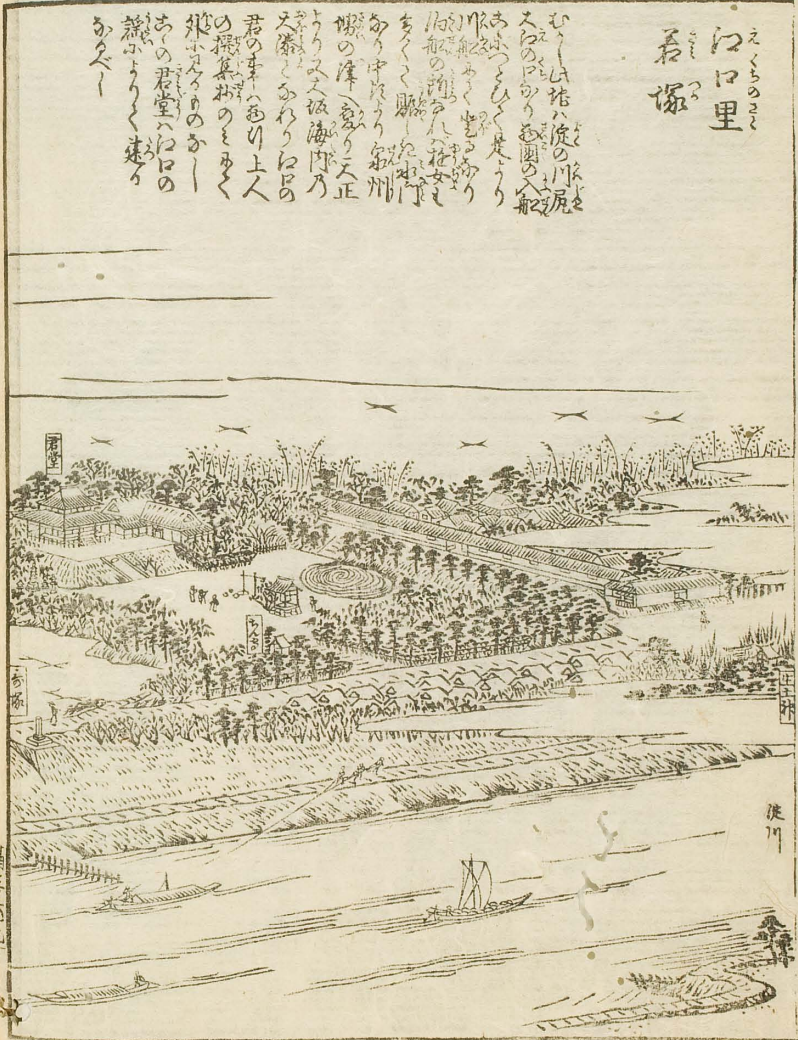
二日 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇
二年秋九月 難波に幸ゆりて大隅宮に居りあり安閑天皇

大
道
社



えくちのこ
わ
口
里
君
塚

むかしは、結、後の川、
えの、口、あり、お、園、の、入、船
あ、ま、つ、と、ひ、く、是、う、り
川、の、船、の、入、り、物、り
向、船、の、船、の、入、り、物、り
ち、く、く、船、の、入、り、物、り
あり、中、の、う、り、船、州
船、の、岸、の、入、り、正
う、り、又、は、海、内、乃
又、漆、と、あ、り、わ、り、は、
君、の、幸、へ、あ、り、上、人
の、撰、集、の、の、も、ま、く
外、の、君、堂、へ、わ、り、の
あ、の、君、堂、へ、わ、り、の
あ、の、君、堂、へ、わ、り、の
あ、の、君、堂、へ、わ、り、の



御料 次ニ齊宮、御料宮主 着膝突面 捧御府修禱
禱了以テ祭物ヲ投シ海ニ次ニ歸京 於江口 遊女 泰入 纏
頭例 祿如 恒 歸京之 後典侍 泰内 返上 御衣 并
申御祭 祭平 安奉 仕畢 由云云
に口尼古蹟 是口里より入旧跡也

行撰集抄云 治承二年 長月の頃の事なりやちあひ西の國(あまのこ)より

さしていつくも形さす小宮のくちゆきもいそぎては口けれし形ん
とり遊女を夜家えりけれ家の南水のこいふはこきみておの藤人の云
けの信成おりの備もけりねとこふてぬもあしくは世はさう
て来世をいらたや最もあ世の遊女してある是れ宿業のゆり
たるアハ露の身のまくのけははさるそ併のぬきこいす父
はつりさ成さる所我身一のほとせめていりせんあくの人はさ
おれんせんまいさうてかたれとせゆはまくれもかの遊女の
中におりし世はけ浦人のあつ命はたのゆあつておつりい
れ事おくゆりささるはいはあるまもあ世のまも小よつと何と

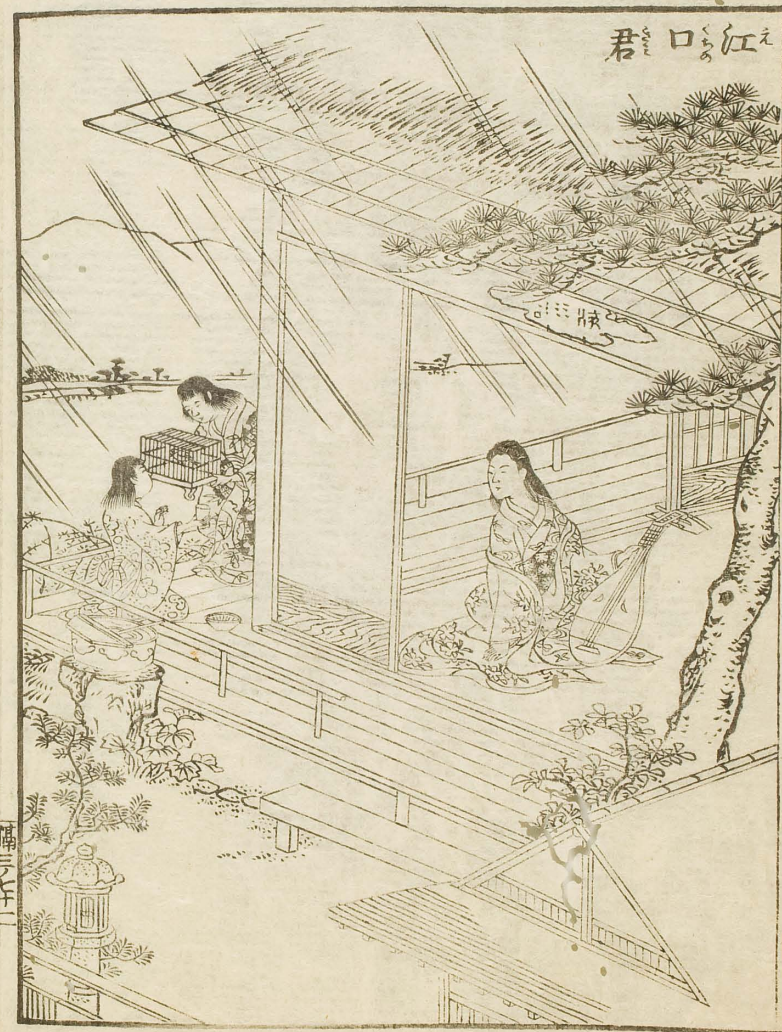
備三十七

今かくてはゆのまひとそとれや又世のほとあふくくたあふかぬ
世は成とけんや世は成とてまの思ふよもまをさすのまや露命は
はんとそのけりくと小侍れはあふあふれまきうつかまふとまはこ
れふとまのたうねまは成とてつ小後世のまは成りん人たはあまき
意成とたふまはたゆのまひ侍るもまきなりくぬ毎とまきうつる
よ侍んとあつらうとらわな祭はその里は色ぢんとする小色成まら
得ぬむ時女のとけりそ人のとくも小まきまらてうら成といれ侍る小
あつ此尼の時女とらまら成まらあまは一ちらふけてあつらうけり
何んきうは何とけりか

賤のゆきや成ゆきとまのり

とうらまきまら小は成まらあふかうけりまのほろ何と
てう園々ん板成形け捨ま

月をそれるまらと満れとあふ



蘆浦

八雲仰抄本集俱入
撰津園入

續古

人々のたのむかきと云々雑はわらわの此浦のうらみはるるね

延喜御製

蘆のさうらふ
蘆のさうらふ
蘆浦の一名

家集

雑はくともたけ舟をのりつるのたふらばやくをきくうら
なれ

元真

攝津名所圖會卷之三終

攝津名所圖會

紅印

